



報告書

(平成 27 年度 第 2 回)

平成 28 年 1 月

大和市

目次

1. 開催概要	2
(1) 本事業の目的	2
(2) 当日のプログラム	3
2. 討議会の内容	4
(1) 大和市の人口を取り巻く状況と課題	4
(2) 市民討議会の進め方	4
●話し合いのお約束.....	4
●付箋の書き方のポイント.....	4
(3) 午前の意見交換 ワールドカフェ	5
●進め方.....	5
●流れとまとめ.....	7
●詳細結果.....	8
(4) 午後の意見交換 ワークショップ	24
●進め方.....	24
●流れとまとめ.....	26
●詳細結果.....	28
3. 参加者アンケートのまとめ	54
4. 市民討議会の写真	62
5. 大和市の人口を取り巻く環境	64

1. 開催概要

(1) 本事業の目的

これから大和市に住みたいと思う人をもっともっと増やしていくためにはどのようなことが必要か、市民の方々からご意見をいただき、市の取り組みの参考とするため、平成27年11月14日(土)に「やまと市民討議会」を開催しました。

開催にあたっては、普段、市に意見を述べる機会の少ないいわゆる「サイレントマジョリティ」の方々に参加していただくため、無作為抽出した市民3,000名に案内を送付しました。

当日は、抽選で選ばれた33名の方と市内高等学校6校から生徒11名が参加しました。

(2) 当日のプログラム

日時：平成27年11月14日（土）

場所：大和市役所5階 研修室（大和市下鶴間1丁目1番1号）



小田急江ノ島線「鶴間駅」からのアクセス:

【徒歩の場合】鶴間駅東口から約10分

【バス利用の場合】約5分

(「鶴間駅東口」乗車、「オークシティ前」下車 徒歩約3分)

小田急江ノ島線「大和駅」からのアクセス:

【バス利用の場合】約10分

(「大和駅西口」乗車、「市役所市立病院前」または「市立病院」下車 いずれも徒歩約3分)

・市民討議会は公開して行いました。

時間	所要時間	実施内容
9:30	-	受付開始
10:00	10分	開会のあいさつ
10:10	20分	大和市の人口を取り巻く環境
10:30	20分	本日の進め方の説明
10:50	60分	8グループ(6~7人)に分かれて2つのテーマについて席替をしながら意見交換を行います。 テーマ①：住みたいまちってどんなまち？住みたいまちの条件を出し合おう テーマ②：例えば10年後、次のライフステージに進んだ時にどんなまちに住みたいかを語り合おう
11:50	30分	グループ成果の発表
12:20	60分	昼食・休憩
13:25	5分	午前中の成果の共有と後半グループワークの進め方・テーマの確認
13:30	120分	午前中に出された意見を受けて、8グループ(6~7人)に分かれて、各グループが1つのテーマについて、意見交換を行います。 [テーマ例] 私たちの考える最高の大和市の暮らし方を考えよう ①観光 ②子育て・教育 ③仕事 ④高齢・福祉
15:30	25分	グループ成果の発表
15:55	20分	各グループで良いと思った発表についてシール投票・まとめ
16:15	15分	閉会のあいさつ・アンケート記入

2. 討議会の内容

(1) 大和市の人口を取り巻く状況と課題

市職員より、大和市の人口を取り巻く状況や、課題について、説明を行いました。



(2) 市民討議会の進め方

コーディネーターより討議の進め方について説明を行いました。

討議は、自由な意見を出し合うために、少人数で意見交換を行うグループワーク形式で実施しました。



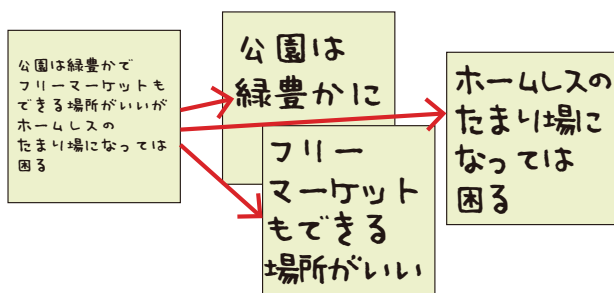
●話し合いのお約束

次のことを、話し合ううえでの約束事項としました。

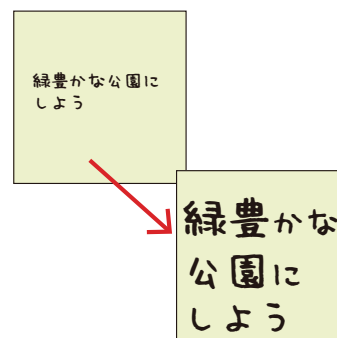
1. 全体の進行がスムーズにいくように協力しましょう
2. たくさんの事を言いたい時でもなるべく多くの方が議論に参加できるように配慮しましょう
3. 他の人の意見を否定したりせずに、いろいろな考えの人がいることを理解しましょう

●付箋の書き方のポイント

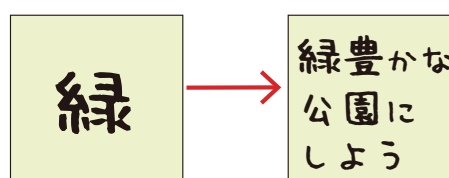
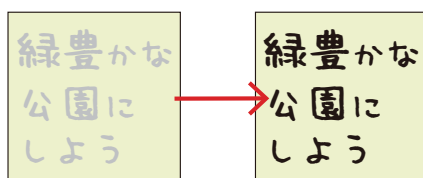
- ・ 1枚に1つのことを書く



- ・ できるだけ大きな文字で書く



- ・ 配布しているサインペンを使って書く
- ・ 単語ではなく、何をどうしたいかがわかるように書く



(3) 午前の意見交換 | ワールドカフェ

●進め方

- ・住みたいまちの条件を出し合い、次のライフステージに進んだ時のまちの心配ごとについて議論しました。
- ・討議は6～7人のグループに分かれて、2つのテーマについてワールドカフェ方式で意見交換を行いました。

【ワールドカフェとは】

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいて、1995年にJuanita Brown（アニータ・ブラウン）とDavid Isaacs（デイビッド・アイザックス）によって開発された話し合い（対話）の手法です。

テーマ①：住みたいまちってどんなまち？住みたいまちの条件を出し合おう

テーマ②：例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の
まちの心配ごとを出し合おう

午前の進め方 (10:50~12:20)

6~7人で席替えしながら2つのテーマについて意見交換します

- 1) 8テーブルに分かれて座ります
名札にお示したグループにご着席ください。
- 2) ヒトコト自己紹介
プロフィールシートを使って自己紹介をします。
- 3) テーマ①: 住みたいまちってどんなまち?
住みたいまちの条件を出し合おう
思いついたことを何でも出し合ひましょう。特に気になった原因については、深堀してみてください。
- 4) 出し合った意見を書き出そう
テーマはピンク色の付箋に一人 3 枚ずつ書いて貼り出しましょう。
- 5) 席替え
名札に示した座席情報を基に移動します。
- 6) 前のグループの振り返りと自己紹介
前のテーブルで話したことを振り返り共有します。
- 7) テーマ②: 例えば 10 年後、次のライフステージに進んだ時のまちの心配ごとを出し合おう
テーマ①で出された理想のまちの条件をもとに、自分が次のライフステージに進んだ時に考えられる心配ごと、課題を出し合ひましょう。
- 8) 出し合った意見を書き出そう
青色の付箋に一人 3 枚ずつ書いて貼り出します。
- 9) グループのベスト意見を選び発表しよう
他のグループに聞かせたい意見を一人 1 枚ずつシール投票で選び、発表者を決めて発表します。

テーマ①②のまとめシート

グループ	「住みたいまちの条件」を考えよう!	
グループ	テーマ 1	メンバー
	住みたいまちってどんなまち? 住みたいまちの条件を出し合おう!	
	若者 ←	→ シニア
	□ □ □	□ □ □
	□ □ □	□ □ □
	□ □ □	□ □ □
	テーマ 2	メンバー
	例えば 10 年後、次のライフステージに進んだ時に、まちの心配ごとを出し合おう	
	若者 ←	→ シニア
	□ □ □ ●	□ □ □ ●
	□ □ □	□ □ □
	□ □ □	□ □ □
	□ □ □ ●	□ □ □

ベスト 4 にシールを貼る

●流れとまとめ

- ・2つのテーマについて8つのグループで話し合っていました。参加者のみなさんの意見をまとめると、次のとおりです。

住みたいまちってどんなまち？ 住みたいまちの条件を出し合おう

<全世代>

- ・自然豊かで美しく、静かで治安のよいまち
- ・経済的に暮らしやすく、文化度と知名度の高いまち

<若い世代>

- ・誰もが楽しく休日を過ごせるよう、レジャー施設やショッピングセンター、公園が充分にあるまち
- ・子どもを預けながら仕事ができる環境があるまち
- ・市内で働けるまち

<シニア世代>

- ・コミュニティバスなど、移動に不便のないまち
- ・高齢者同士、世代間の交流が活発で、助け合いのあるまち

例えば10年後、次のライフステージに進んだ時のまちの心配ごとを出し合おう

- ・保育所、幼稚園における園庭などの遊び場や街灯などの整備、治安向上の取り組みが不十分で、子どもの成長に影響があるのではないか
- ・日頃から近隣の人々との交流があり、災害時にも頼りにできるコミュニティができているかどうか
- ・自転車も車も渋滞などに巻き込まれず、安全で便利に道路を利用できるかどうか
- ・市内に多くの企業があり、障がいの有無にかかわらず、働ける環境があるかどうか
- ・介護施設、医療機関や医療・介護人材の不足から、老後に十分なケアが受けられないのではないか
- ・高齢になっても外出に不便がないなど、暮らしやすいまちであるかどうか

●詳細結果

1 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)**テーマ1 住みたいまちってどんなまち？****住みたいまちの条件を出し合おう！****自然を身近に感じられる、緑豊かなまち**

- ・ 駅周辺にも緑が多いまち
- ・ 自然を身近に感じられる

交通や買物に便利なまち

- ・ 買物施設が充実している、買物が便利
- ・ 交通の便が良い

きれいなまち

- ・ 建物などが整然としている
- ・ 道にゴミが落ちていないまち

人が優しく、頻繁に交流するコミュニティ

- ・ 人々の交流ができるまち
- ・ 地域の人たちとよく話しができるまち
- ・ 人が優しいまち

基地を有効活用するまち

- ・ 基地があるから

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

園庭がない保育園・幼稚園が増えていることが心配

保育園・幼稚園が増えていない

自転車などのマナーの悪さが心配

不必要な施設がある

- ・ 本当に必要な施設なのか利用する施設との距離感が適切でない
- ・ 利用する施設との距離感

他市に比べて、ベッドタウンとしての知名度や強烈な魅力に乏しく、市のアピールが出来ていないことが心配

- ・ 見所が少ない、他市より知名度が低い
- ・ 大和市のアピール、知名度向上
- ・ ベッドタウンとしての強烈な魅力がない

医療機関が少なく、福祉に不安がある

- ・ 医療機関の増設
- ・ 福祉への心配

介護住宅などの高齢の方が安心して住める施設が増えているか

- ・ 老後介護住宅の拡充
- ・ 高齢の方が安心して住める施設がない

高齢になった時の移動手段が心配

- ・ 移動手段
- ・ 車が運転できなくなった時の交通手段が心配

2グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

テーマ1 住みたいまちってどんなまち？ 住みたいまちの条件を出し合おう！

公園や川など、自然に恵まれたまち

- ・自然につつまれている
- ・自然環境の整備、公園や河など

マナーが感じられる街並みが美しいまち

- ・美しいまちづくり
- ・喫煙マナー
- ・自転車走行（運転）
- ・駅や道がきれいであると良い

昼夜問わず治安がよく、閑静で、安心・安全に生活できるまち

- ・安心・安全な生活ができる
- ・夜でも安全なまちであると良い
- ・騒音問題

車・自転車・歩行者それぞれにとって安全に移動できるまち

- ・自転車レーンがある
- ・インフラ（道路整備など）
- ・幹線道路を整備する

知名度が高いまち

定住しやすい・起業しやすいまち

- ・個人商店への開業金貸与
- ・住居が安価

都心へのアクセス性が高いまち

芸術や文化を育む環境が整ったまち

- ・文化財環境づくり
- ・文化都市の創成
- ・美術、芸術などの展示施設、コンサート会場の設置

教育や研究の環境が充実したまち

- ・教育関連の公共施設が多い
- ・研究機関や大学などの公共施設の設置が必要

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

子どもが遠方で暮らしていて、高齢での一人暮らしが心配

- ・子どもが近くにいない
- ・在宅で一人で住み続ける

子どもが巣立ち、夫婦のみになったとき生活を楽しめるか心配

- ・人生には「今日用（今日の用事≠教養）」「今日行く（今日行くところ≠教育）」が必要と聞いたことがあるが、それがあるかどうか

働きながら子育てできる環境が整っているか心配

- ・子育て環境
- ・子育てしながら働けるように

高齢の方と若い世代が互いに支え合えるまちになっているか

- ・高齢の方が活躍できるまち
- ・若い人の力になりたい
- ・老人と若者がうまく共生できるまち
- ・年代を問わず生き生きと過ごせるまち
- ・世代間の垣根のない大和
- ・支え合いのあるまち

子どもたちの声が聞こえ、帰宅してほっとできるまちになっているか

- ・職場から帰って、ほっとできるまち
- ・子どもの声が聞こえるまち

買い物、交通など、生活の利便性が高いまちか

- ・買物施設が多くあると良い
- ・店や人が楽しくなると良い
- ・交通の便が良いまち

防犯や福祉が充実し、安心、安全に笑顔で暮らせるまちか

- ・安心して住めるまち（治安、福祉など）
- ・事件が起きない安全なまち
- ・あったかい大和、笑顔が見られる大和でありたい
- ・まちがきれいになると良い

キャッチフレーズ：『帰りたい、帰りたい、あったかい大和が待っている』

3 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

テーマ1 住みたいまちってどんなまち？

住みたいまちの条件を出し合おう！

お祭りやイベントが充実しているまち

- ・花火大会に行きたい！！
- ・お祭り、イベントが充実している

アスレチックや小さい子どもが遊べる公園などが充実しているまち

- ・運動できる公園がある
- ・アスレチック、遊べる公園（小さい子ども）

図書館や勉強できる場所があると良い

- ・勉強できる環境がある
- ・図書館がある

新しい施設や流行のものと、古き良きものとのバランスがとれたまち

税金が安いまち

職場に通いやすく、帰宅してホッとできるまち

- ・安心できる、ホッとできる
- ・仕事場に通いやすい、利便性
- ・仕事場とのギャップ

コンビニ、スーパーなどが点在し、便利に生活できるまち

- ・コンビニ、スーパーなど、生活に必要なものがたくさんある
- ・住む、買う、働く、ごちゃごちゃしない

電柱がなく、並木や芝生などの植物から紅葉などの季節感を感じながら生活できるまち

- ・紅葉など季節感を感じる
- ・自然、並木があると良い（名所）
- ・芝生の公園とか
- ・電柱がないまち

大和市の知名度が高まるランドマークのあるまち

- ・大和市といえばこれ！！というランドマークが欲しい

高齢の方と若者が交流し助け合い、子育てや教育などお互いに助け合えるコミュニティのあるまち

- ・高齢の方同士の交流、住み替え
- ・子育て、教育がGOOD
- ・共働き→子ども預かり
- ・世代間のコミュニケーションの場がある
- ・お互い助け合い

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

働きながら子育てできるか心配

- ・働きながら子育てできるか
- ・子どもを預けられるか心配

高校生、大学生へのサポートが必要

- ・高校生、大学生へのサポートが心配（助成）

高齢の方や障がい者を雇用できているか心配

バリアフリーな街になっているか心配

病気をした時にしっかりと対応してくれる病院があるか心配

結婚や子育てをできる収入があるか心配

- ・結婚して、子どもを育てる稼ぎが少ない
- ・結婚できなくなるのが心配

家族構成が変わっても暮らしやすいまちかどうか心配

- ・核家族→拡大家族、子育てしやすい
- ・家族構成が心配

街灯などが暗く、治安が心配

4 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

テーマ1 住みたいまちってどんなまち？

住みたいまちの条件を出し合おう！

街灯などが多く、治安がよく安全だと感じられるまち

- ・安全と感じるまち
- ・治安が良いまち
- ・もう少し街灯を多く

平らな歩道が整備され、歩きやすいまち

- ・歩きやすいまち
- ・平らな歩道

防災対策がしっかりしているまち

- ・防災対策がされているまち

ゴミ出しなどがきちんとできるまち

- ・ゴミの放置がない

税金が少なく、残業なく働ける場所があるまち

- ・税金の少ないまち
- ・残業なく、稼ぐ場所がある

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

どの世代でも利用できる安全な公園があるか

- ・どの世代でも利用できる公園

夜も安全で、治安の良い生活環境が整っているか

- ・治安が心配
- ・夜間の保安状況が心配
- ・生活環境の安全化

老人ホームや介護施設が十分な数、整備されているか心配

- ・老人ホーム入居問題
- ・高齢の方の介護施設

人口減によって税金などの負担が増え、まちに活気がなくなることが心配

- ・税金が高くなりそう
- ・活気がなくなる

障がい者雇用が進んでいるか心配

5 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

テーマ1 住みたいまちってどんなまち？

住みたいまちの条件を出し合おう！

自転車道が整備され自転車も安全に走れるまち

- ・車道と歩道だけでなく自転車道も整備されたまち

夜に電車、車、航空機などの騒音がない静かなまち

- ・夜遅くまで騒音がないまち
- ・騒音が少ないまち

外出できる様々な機会があるまち

- ・独身男性のための料理教室を開催するなど

大型店舗や飲食店があり明るくて清潔な駅のあるまち

- ・ショッピングモール、コンビニ、レストランを増やし夜も明るくにぎわう駅のあるまち
- ・単身者のための夜遅くまで営業している店舗があるまち
- ・駅付近の飲食店の臭いがひどくないまち

緑が多く寛げる空間があるまち

- ・自然の多い公園で寛ぎたい
- ・緑に恵まれた公園が多いまち
- ・緑が多くも少なくもないちょうど良い公園があるまち

犬と楽しんで暮らせるまち

- ・ドッグランがあるまち

蔵書が充実している図書館のあるまち

通勤や観光に交通の便がよく渋滞が少ないまち

- ・通勤や観光に交通の便が良いまち
- ・交通渋滞が少ないまち

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

子ども連れやベビーカーでも移動しやすい交通環境があるか

- ・歩道が狭いと小さい子には危ないので広い歩道があると良い
- ・ベビーカーでも乗降しやすいバスがあると良い

自宅付近で全ての買い物ができる便利な環境があるか

- ・自宅の近くで全ての買い物ができること
- ・雨でも買い物しやすい商店街（アーケードなど）

多くの世代が集い災害時に活かせるつながりを生む場所があるか

- ・人々のつながりが重要（特に災害時）
- ・多くの世代が集える場が欲しい

現在の乗降者数に見合ったスムーズな乗降ができる駅の規模になるか

- ・ホームがかなり混みあうのでスムーズに乗降できるようにして欲しい
- ・駅に2車線分のスペースが足りない
- ・電車の混雑緩和

通学路に街灯が増え、安心できるまちになるか

より良い清潔なまちになるか

- ・以前よりまちがきれいになった

すぐに駆け込める病院があるか

- ・親に何かあった時に、病院がすぐ近くにある

車も自転車もお互い安全に走れる道路が整備できているか

- ・車の交通の混雑緩和
- ・車にとっても自転車にとっても安全に走れる道があると良い

駅や歩道などの公共施設がバリアフリーになり高齢の方が住みやすいか

- ・高齢の方に配慮したまちになると良い
- ・駅や歩道などの公共施設がバリアフリーに対応して利便性が高くなっていると良い

自然を探索したり見つけたりできる場所が増えているか

- ・現在も自然が多くて良い
- ・富士山に見える場所を見つけるのが楽しい

6 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

テーマ1 住みたいまちってどんなまち？

住みたいまちの条件を出し合おう！

夜も安心して歩ける便利なまち

- ・夜、安心して暮らせるまち
- ・夜でも安全に歩ける道
- ・安全で便利なまち

治安の良いまち

道路幅が広く、自転車専用道があるまち

- ・道の幅を広くしてほしい
- ・自転車専用道をつくる

遊べる店やテーマパーク、自然豊かな公園があり、休日に出かけたくなるまち

- ・友達と遊べる店やテーマパークがあると良い
- ・釣りができる公園、施設があるまち
- ・自然豊かな公園が多くある
- ・休日に遊びたくなるまち

ゴミが落ちていないきれいなまち

- ・まちに落ちているゴミを減らす

子どもの預かり施設が充実しているまち

- ・小学校の放課後の預かりが、充実しているまち

経済的に暮らしやすいまち

- ・経済的に住みやすい（家賃や物価が安い）まち

基地の飛行機の音が静かなまち

商店街に活気があり、お祭りやイベントなども開催される活気あるまち

- ・活気がある、お祭りやイベントがある
- ・活気ある商店街

事業所の多いまち

老人にやさしいまち

- ・行政の支援やその案内がある老人にもやさしいまちに

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

保育施設など子育て支援は充実しているか

- ・子育てに関する支援が整っているかどうか
- ・仕事と子育てが両立できるまち、駅に保育施設をつくる

遊具や駐車場など公園は充実しているか

- ・公園の遊具の設置、子どもができれば遊ばせたい
- ・公園の駐車場が少ないので多くしてほしい

企業や仕事がかまちにあるか

- ・仕事がある、事業所は閉鎖しない
- ・会社が多いまち
- ・若者が定着できる働く場所と企業の誘致

会社や学校に通いやすいか

- ・職場が近い、通勤が楽、選択肢が多い
- ・会社、学校に通いやすいまち
- ・交通の便

誰にとっても安全な道路状況になっているか

- ・車道と歩道の道幅
- ・歩道などのバリアフリー改善
- ・人も車も自転車でも安全な道
- ・インフラ、自転車専用道路の整備が必要

騒音が減っているか

衣食住が満たされるまちになっているか

高齢の方が安心して暮らせるまちになっているか

- ・高齢の方が安心して住めるまちづくり、医療や福祉と介護のハードとソフトを創造する

駅をはじめ、まちを安心して歩けるか

- ・夜でも安心して歩けるまちかどうか
- ・通学に適した駅を！（自分の子を安心して通わせられるような）

7 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)**テーマ1 住みたいまちってどんなまち？
住みたいまちの条件を出し合おう！**

交通の便が良いまち

治安が良いまち

自然の残る緑が多いまち

- ・緑が多い
- ・自然が残っているまち

公園が多いまち

駅周辺に生活に必要なものが揃っていて、便利なまち

バリアフリーで、介護しやすいまち

- ・老人介護バリアフリー

障がい者雇用の進んだまち

物価が安いまち

サークル活動がやりやすいまち

公共インフラが充実しているまち

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

交通の利便性がより高まっているかどうか

- ・交通の利便性の強化

ネームバリューが高く、若者に人気なまちになっているか

- ・藤沢や横浜のようなネームバリュー
- ・若い方の住みたいと思うイメージのまち

福祉関係の資格取得に助成金が出る、介護福祉施設が充実しているか

- ・介護などの充実はどうか
- ・福祉施設、介護施設の充実（子育て世代再取り込み）
- ・福祉関係の資格取得にあたり、助成金、補助金など

老人が自由に外出できるまちになっているか

若い世代が暮らし、家族が安心して暮らせるまちになっているか

- ・若い世代が残っているかどうか（大和に）
- ・家族が安心して暮らせるか

治安が良いまちになると良い

若い人が働きやすく、子育てしやすいまちになっているか

- ・働きやすい
- ・若い人が子育てしやすいまち

困った時に相談にのってもらえる関係性があるか

8 グループ (太字はまとめ、細字は個別意見)

テーマ1 住みたいまちってどんなまち？

住みたいまちの条件を出し合おう！

美しい景色があり、自然豊かで静かな場所があるまち

- ・風景などの景色
- ・自然が多くて良い
- ・鎌倉（お寺）静かなところ

食材が豊富なまち

大型ショッピングセンターなどの集約施設があるまち

交通整備がされ、渋滞がないまち

気候の良いまち

富士山が見える場所を探せるまち

花壇や遊歩道のあるまち

- ・大和市の中に花とかウォーキングできるところが増えると良いな

住環境がよく安全なまち

仕事があり、職場が近いまち

- ・仕事がある
- ・工場が多い（働く所が近い）

コミュニティバスが使いやすく、高齢の方は乗車証などが配布されるまち

- ・使いやすいコミュニティバスのあるまち（朝早く/夜遅くまで走っている）
- ・高齢の方向けのバスの乗車証があるまち

テーマ2 例えば10年後、次のライフステージに進んだ時の まちの心配ごとを出し合おう

働く場があるか心配

- ・ 仕事をする場所

明るく安全な道路があるか

- ・ 照明とか道路問題

コミュニティバスや電車など、公共交通機関が整っているか

- ・ 公共交通機関、バス、電車、コミュニティバス
- ・ 公的移動手段の充実

渋滞がなく、通勤や旅行に便利であるか

- ・ 通勤が楽になると良い
- ・ 渋滞の緩和
- ・ 旅行しやすい道路の確保

テーマパークや集いの場所があるか

更に治安が良くなっているか心配

近隣の人々との交流があるか心配

子育てしやすい環境が整っているか心配

市立病院のあり方が心配

親の介護が心配

基地との関係が心配

人口が流入しているか

- ・ 文教地区等の手立てにより人口流入

(4) 午後の意見交換 | ワークショップ

●進め方

- ・ 将来住みたいまちの条件やまちの心配ごとをもとに出されたテーマについて、具体的な理想像を語り合いながら、将来に向けた理想を実現するためのアイデアを出し合いました。
- ・ 6～7人で1つのテーマについて意見交換をしました。
- ・ 整理した課題について、グループ内で投票を行い、重要度を確認しました。
- ・ 最後に、課題に対する解決策を短冊に書いてグループごとに発表し、最も大切だと思ったものについて投票を行いました。

グループ①②：「安心・安全に暮らせるコミュニティづくり」

グループ③④：「子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり」

グループ⑤⑥：「“〇〇×しごと” 地域で働く環境づくり」

グループ⑦⑧：「年をとっても、いつまでも住み続けられるまちづくり」

午後の進め方 (13:30~16:15)

6~7 人のグループでそれぞれ1つのテーマについて意見交換します

1) 8つのテーブルに分かれて座ります

名札にお示ししたグループにご着席ください。

2) 午前中の議論を振り返ろう

進行役が午前中の議論をまとめて共有します。

3) 30秒自己紹介

プロフィールシート、テーマについて紹介します。

4) テーマの確認

テーマに関する補足や、午前中の議論の中で出たテーマに関する意見を振り返ります。

5) テーマに関する課題を整理しよう

テーマに関して理想の姿を一人3~4枚付箋に書き出し、グループの中で同じような意見があれば集約するなど、課題の整理をします。

6) 理想を実現するためのアイデアを出しあおう

整理された理想の姿はシール投票で重要度を確認し、重要度の高いものから、将来に向けて理想を実現するためのアイデアを出し合ひましょう。

7) アイディアをまとめて発表しよう

解決アイデアの中でシートにとりまとめ、発表者を決めて全体でアイデアを共有します。

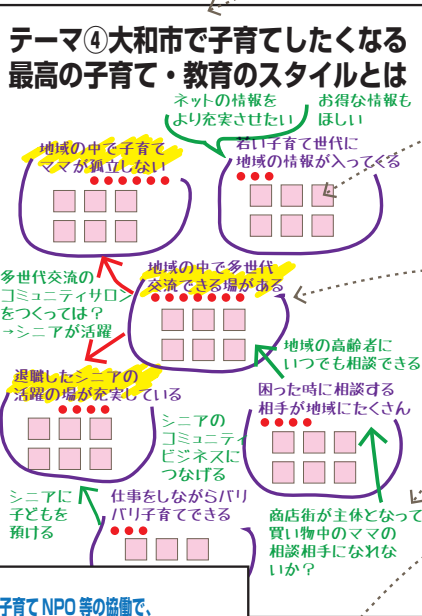
8) 会場全体で出てきたアイデアをシール投票

他のグループのアイデアを含めて、大切だと思うアイデアにシール投票をします。

9) まとめ

本日の議論の成果を確認します。

後半議論の模造紙のイメージ



テーマ④
企業と行政と子育てNPO等の協働で、子育て世代に地域情報を届けるインターネットのサービスを充実させる

テーマ④
退職後のシニアが、地域のNPOと連携しながら子育ての相談に乗れる場をビジネスとして運営する。行政はノウハウのサポート

テーマ④
地域の子育てをする親を地元のシニアが気軽に見守ることのできる多世代コミュニティサロンを行政や社協、子育てNPOが連携してつくる

テーマ④
地元商店街と子育て系の団体が連携し、「子育てママの相談に乗れる商店街」として確立し、買い物中に気軽に声かけや悩み相談ができる体制をつくる

後半議論のまとめシート

●流れとまとめ

4つのテーマに分かれて、各グループで話し合っていたきました。その後、最も共感できるアイデアについて参加者全員で投票を行いました。

表の見方

グループ番号

課題／理想 解決／実現のアイデア

※太枠はグループごとに最も投票数が多かったアイデアです。

テーマ① 安心・安全に暮らせるコミュニティづくり

1グループ	知名度が低い 自然を大切にしたい 古いものと新しいものを共存させたい	富士山が見えるスポットのマップをつくりPRしよう	1グループ	働きながら安心して子育てしたい	お母さん同士が助け合える環境をつくろう
	交通事故のない安全なまちにしたい	飛び出し注意のキャラクター看板の設置や見通し、通学路の安全を確保しよう		子どもが健全に育てられるか不安	新米お父さんお母さんのための子育て相談会を開催し、先輩ママや専門家との連携や、おばあちゃんの知恵袋を活用しよう
	夜も明るく、治安がよい、安全なまちにしたい	治安 No.1 のまちを目指して、人気の店をまちの奥に置くなど、回遊性を高めて商店街を賑やかにしよう+街灯を増やそう	2グループ	多世代交流の場があるとよい	コミュニティセンターに学生が勉強するところをつくり、勉強に使える資料を置いたり、ドリンクバーを設置したりすることで、利用者を増やそう 夏休み期間中、不登校の子どもにボランティアの学生（大学生）が勉強を教える場をつくらう 地域の多世代にもっと集まってもらうために転入の際にコミュニティセンターの機能を伝えたり小中学校と連携して子ども向けの情報を伝えよう
	災害時にどうしたらよいかわからない	世代別に安心して情報を得ることのできるツールを確保しよう		近所コミュニティが充実するとよい	利用者や時間のある高齢者に管理をお願いし、半官半民で運営する新しいコミュニティセンターにしよう
	自治会に加入する人が少ない コミュニティセンターをもっと活用したい	コミュニティセンターに人をつなぐコーディネーターを置いて、子どもと高齢者の交流を活性化しよう			

テーマ② 子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり

3グループ	コミュニティセンターがもっと小学校に近く、同世代や高齢者との交流を深められ、児童の代替施設として使えるとよい	コミュニティセンターで小学生向けのイベントをどんどん企画して小学校にPRしていこう	4グループ	子育てしながら働きやすい環境があるとよい	大和市内の駅に保育施設をつくろう（市内の駅の半数程度）
	子どもを預けられる施設が増えるとよい	小学校とコミュニティセンターの関係を近づけるために、コミュニティバスを活用しよう		地域社会で学生～シニアが交流しながら、子育てや見守りに関わる仕組みがあるとよい	シニアが子どもを見守り、学生は子育てを学びつつサポートする、子育て支援の仕組みをつくろう 登下校の時間に、複数人で自発的に街角に立ち、子どもに声をかける見守り運動をしよう
	働きながら、子どもを安全に育てていける仕組みがあるとよい	コミュニティバスを、子育てに関する色々な情報を得られる情報発信拠点にしよう	子育て世帯に集中した経済的な支援があるとよい	事業仕分けを行い、浮いたお金を子育て助成金や低額家賃住宅、市民税軽減に充て、市外にアピールしよう	
	親が「子育て」を学べる場や、機会が充実しているとよい	「特定の子育ての悩み」を抱える前のタイミング毎に、学べる機会を提供していこう	大和市の良いイメージづくりをし、アピールするとよい	外国人が多いことをプラスに捉えて交流の場を増やし、国際色豊かなまちとしてアピールしよう	
子どもが気軽に遊べる公園などが充実しているとよい	子どもが遊びに行きたくなる遊具のある公園の設置や屋内施設の充実など、遊び場の選択肢を増やしていこう				

テーマ③ “^{かける}〇〇×しごと” 地域で働く環境づくり

5グループ	働く世代を応援するまちになって欲しい	開業・起業に向けて市が金銭的な補助をしよう	6グループ	地域の人の働く場にもつながる高齢者施設があるとよい	将来、自分が入居することを見据え、今入居している世代のために働けるような市民参加型の高齢者の住まいをつくろう		
	新しい技術や職能を身につけられる場があるとよい	介護職などの必要とされる資格や技術を学べるサポートをしよう		子育てと仕事を両立できるとよい	子育て世代が働きやすい多様な選択肢を提供できるように、駅近くの託児所、夜間対応の保育園、在宅勤務などを推進しよう		
	正規雇用する職場や、多様な働き方ができる職場が増えるとうい	共働きを推進するために、勤務時間を自由にできる企業の誘致や、在宅で働ける環境づくりをしよう		自宅付近で働ける環境があるとよい	高年齢者の雇用を促進することが大切	高齢者や障がい者がいきいきと働けるよう、専門性を活かせる職場とのマッチング、ネットワークづくりの支援をしよう	
	ITを活用して、在宅勤務ができる環境があるとよい			職場だけでなく、リフレッシュできる場所もまちの中にあるとよい		若者が働きたくないような労働条件のよい企業が不足している	若者に魅力的な企業誘致のため、短期的には企業育成、税制優遇、長期的には都市計画や交通の利便性向上などを検討しよう
	大手・知名度のある企業を誘致できるとよい			多様な世代の就職のサポートをするにあたって、市からの一方的な情報提供だけではよくない		多様な世代の交流を促進できるとよい	多様な世代の交流を通じて、世代を横断した助け合いが新しい雇用を生む仕組みをつくろう
	ダブルワーク、ダブルインカムを学べる、できる場があるとよい	大和市の知名度を向上させたい		“〇〇”で有名な大和市ブランドをつくるために、ランドマークや企業の誘致、新しい暮らし方を発信しよう	多様な世代の交流を促進できるとよい	市民と市が相互に情報交換しながら、仕事をマッチングする仕組みをつくろう	

テーマ④ 年をとっても、いつまでも住み続けられるまちづくり

7グループ	移動手段の選択肢が多いまちになるとよい	行きたい場所や時間帯に柔軟に対応する公共交通の仕組みをつくろう	8グループ	病院が必要ななくなるとよい	楽しく身体を動かす機会を増やして健康寿命を延ばそう
	若い人からお年寄りまで、多世代の交流があるまちをめざそう	各世代が持っている得意分野を教え合う機会をつくれるように「一芸データバンク」をつくろう		リーズナブルに入居できる高齢者施設がない	施設に入居しなくて済むよう、それぞれに合った就業サポートをし、自立した生活を支援しよう
	日常生活や趣味を続けるために、手助けしてくれる方や機会が提供されるとよい			身近な人と支え合いができる関係があるまちになるとよい	支え合える関係をつくるために身近に集まれる場やイベントをつくろう
	老老介護を安心してできるまちになるとよい			助け合って介護ができるように、公共医療機関の充実や専門家との連携とともに、「世代」「地域」が違うボランティアの方との協力関係を築こう	集まれる場があっても気軽に参加できない
	歩くことが楽しいと思える魅力やスポットがあるとよい	まちのバリアフリー化を進め、身近な地域を回れる「テーマ型」の散歩コースをつくろう		一人暮らしでも安心して暮らせるまちになるとよい	身近な知り合い同士だけが知っている「合図」をつくろう



●詳細結果

(●：グループワークの中で各参加者が最も大切にしたいこととしてシール投票したもの、○：グループワークの中で各参加者が大切にしたいこととしてシール投票したもの)

■グループ1 安心・安全に暮らせるコミュニティづくり

○議論の流れ

- ・安心・安全に暮らせるコミュニティづくりをテーマに議論した前半は、県内で一番安全なまちにしたいという意見が出された。これは、駅前等の治安や交通事故に対する不安への対応とともに、これらの負のイメージを払拭し、治安の良いまちとして、大和市の知名度を向上したいという気持ちからの意見である。知名度に関連しては、自然の魅力を活かしたまちにしたいという意見や新旧の街並みが共存した魅力のあるまちにしたいという意見が出された。また、コミュニティセンターを活用し、多世代の交流を促したいという意見も多く出された。
- ・後半は、県内1番の安心・安全な暮らしがあり、知名度があり、多世代の交流もあるまちにするためのアイデアを議論した。
- ・安心・安全に関しては、街路の明るさの確保や

商店街の人通りを増やすことによる治安の向上、防災情報の伝達手段の多様化による災害時の対応力の向上などのアイデアが出された。また、交通安全や子育ての観点からも安心・安全県内1番のまちを目指す為のアイデアが出された。

- ・知名度の向上については、上述の安全性の確保によるPRのほか、富士山が眺められるスポットの紹介等のアイデアが出された。
- ・多世代コミュニティの形成については、児童館や貸し館として利用されているコミュニティセンターにおいて、互いの利用者の交流が自然と行われるよう、コーディネーターの設置や交流スペースの確保などのアイデアが出された。

理想・課題（論点・個別意見）		解決アイデア（短冊・個別意見）
例	課題（●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数） ・個別意見	解決アイデア（シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数） ・個別意見
1	知名度が低い（○1人） （意見の付箋） ・知名度がとても低い	大和市の知名度を上げるために、富士山が見えるスポットのマップをつくりPRしよう （シール投票数1票） ・昔から残っている街並みや自然など、まちの思い出を伝えるものを残す ・帰ってきたくなるつながりを体現するものを残す
	自然を大切にしたい（○1人） （意見の付箋） ・自然の鑑賞 ・富士山が見える	
	古いものと新しいものが共存するまちにしたい（○1人） （意見の付箋） ・新しいものを求めつつ、古いものも守っているまちである	

2	<p>交通事故がないまちにしたい 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故が多い ・歩道をつくる（車道とは分ける） 	<p>事故の無いまちにするために、飛び出し注意のキャラクター看板の設置や見通し、通学路の安全を確保しよう（シール投票数1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者と車が多いところが重なっているのが、信号で管理した方がよい ・滋賀県に多い「飛び出し坊や」などのキャラクター看板を使って注意喚起する
3	<p>一番安全なまちにしたい（◎5人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和市が神奈川県で一番安全といわれる市になる 	<p>治安No.1のまちにするために、人気の店をまちの奥に置くなど、回遊性を高めて商店街を賑やかにしよう+街灯を増やそう（シール投票数3票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラを設置するなど、悪いことをするとすぐに捕まる環境をつくる ・商店街のにぎわいがなく、夜は暗くてこわい ・例えば検挙率No.1にしたい
	<p>治安が良いまちにしたい 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故事件のないまち 	
4	<p>街灯があって夜も明るく、安心して歩けるまちにしたい 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗い道が多いので、夜でも安心して歩ける道（明るくする） 	<p>防災のために、世代別に安心して情報を得ることのできるツール（手段や手法）を確保しよう（シール投票数9票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者はSNS、高齢の方は新聞など、世代に応じた情報収集の方策を設けよう ・世代別ツールの使用マニュアルをつくる ・まちのPRボード（掲示板）にも防災情報を載せる ・近所のことをよく知り、助け合える関係をつくる
	<p>災害時にどうしたらよいか分からない（○2人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時にどうしたらよいか分からない ・災害時のための情報を知らない人も多い ・取りに行かないと分からない情報が多い 	
5	<p>働きながら安心して子育てできるとよい（○1人）</p>	<p>安心して子育てできる、働きながら子育てできるまちにするために、お母さん同士が助け合える環境をつくろう（シール投票数4票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金をかけずに土日含めて子どもを預けられるところがあるといい
6	<p>コミュニティセンターをもっと活用したい（○4人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者とシニアの交流が多いまち ・コミュニティセンターを子どもとお年寄りが集まる場所にする ・若者とお年寄りが集まれて、子どもたちとともにものづくりできる場所に 	<p>多世代のつながりを強化するために、コミュニティセンターに人をつないでくれるコーディネーターを置いて、子どもと高齢の方の交流を活性化しよう（シール投票数1票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館利用と貸し館利用の人が交流できるようにする ・来館の目的以外にも触れられるような工夫をする（共通の交流スペースを設けたり、互いの活動がみえるようにしたり） ・児童館に子どもが集まるので、地域の大人と一緒に遊んで、世代間交流を図る
	<p>自治会に加入する人が少ない</p>	
7	<p>アーケードのある雨に濡れない商店街があるとよい 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーケードのあるまち、雨の日でも買物などができる 	<p>空きがあるようであれば、デイサービス、保育など新たな用途に活用して、利用者層の拡大を図る</p>
8	<p>アーケードのある雨に濡れない商店街があるとよい 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーケードのあるまち、雨の日でも買物などができる 	

●作業シート

大知市の知名度を上げるために。
 富士山が見える視点場(スポット)のマップづくりPR
 昔に残っている街並みや自然など思い出をつたえるものを残す

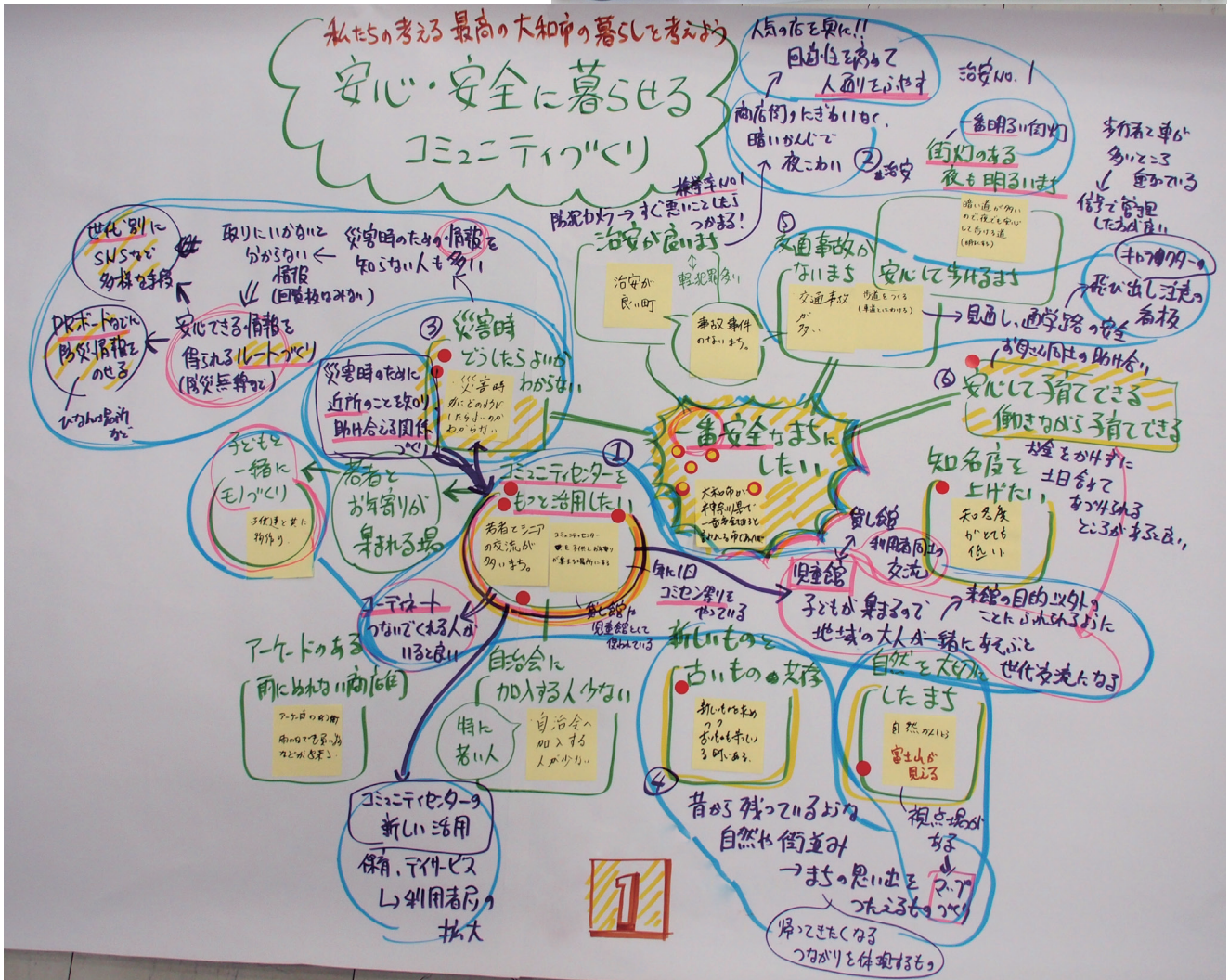
交通安全、事故のないまちにするために
 飛び出し注意の看板や見直し、通学路の安全を確保

治安No.1のまちにするために
 人気の店をまちの奥に散らす、回遊性を高めて、街灯を
 商店街で大きめに作る + 多く作る

防災のために、世代別に安心して情報を得られるルートを作る
 (例えば若者はSNS、高齢者は新聞) 確保する → 年代別の利用
 PRボードにも防災情報をのせる / 近所で助け合える
 団体を育成する

安心して子育てできる、働きながら子育てできるまちにするために
 お母さん同士が助け合える環境をつくる

多世代のつながりを強化するために、
 人をつなぐことができる「コミュニティ」をおき、
 子ども(児童館利用)と高齢者(貸館利用)の交流を活性化



■グループ2 安心・安全に暮らせるコミュニティづくり

○議論の流れ

- ・ 「子どもの育ち」「多世代交流」「安全情報の確保」「夜間の不安」「道路」と大きく5つの論点で意見交換が行われた。
- ・ 「子どもの育ち」「多世代交流」「安全情報の確保」の3つは「ご近所コミュニティの充実＝コミュニティセンターの活用」で解決できるのではないかと展開した。
- ・ 「子どもの育ち」については、乳幼児の子育ての不安と小中学生などの不登校への対応の不安の大きく2つに分かれた。
- ・ 乳幼児の子育ての不安は、先輩ママなどに話を聞く会などを催すことなどで解消されるのではないかと提案がされた。不登校への対応は、地域の大人や年齢の近い高校生や大学生などの若者と触れ合う機会を増やすために「勉強を教える会」などを開くとよいのではないかと意見が提案された。
- ・ 「多世代交流」については、若者が集まる仕組みについて多くの意見が出された。また、交流の拠点として、コミュニティセンターを活用してはどうかとの意見が取り上げられた。現行は、高齢層のみのサークル等での活用が多いことから、前記の若者世代や子育て世代が必要とする企画を実施してはどうかとのソフト的な活用提案に関する意見が多く出された。
- ・ コミュニティセンターが多世代で利用されていない大きな要因として17時に閉館してしまうことにあるとの意見があった。これを解決するため、地域のボランティアで運営を行い、早朝、夜間、休日等も利用できる仕組みの提案があった。また、地域コミュニティの充実を期待し、運営職員などに地域コーディネーター的役割を担ってもらおうとよいとの意見もあった。
- ・ 地域コーディネーターはコミュニティセンターに常勤し、利用者の地域住民といつも顔を合わせる関係になることが望ましいとの意見があった。また、子どもから大人までの様々な相談やトラブルや課題に対応するため、それぞれの専門家や関係機関との連携を密にしておく必要もあるとの提案もあった。
- ・ 「安全情報の確保」については、現在の防災放送が聞きづらいため、メーリングリストのサービスなどを利用してはどうかとの意見が出された。また、この情報についても身近なコミュニティセンターに問い合わせると分かる仕組みなどがよいのではないかと意見もあった。
- ・ 「夜間の不安」については、大きく分けて夜間の街路照明灯の不足による犯罪不安と駅前周辺などの繁華街の治安についての不安の2つの意見があった。
- ・ 夜間の街路照明灯の不足については、全員がおおむね同じ認識なのに対して、駅前周辺への不安については、それほど不安な状況ではないとの意見もあり、不安に感じている人と不安ではないと感じている人の間で意見が分かれた。「道路」については、交通安全の確保と道路美化の課題が出された。

理想・課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>子どもが健全に育てられるか不安 （◎2人、○1人） （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て意見交換会の開催がない ・不登校生徒のための施設がほしい ・待機児童がゼロになっていない ・高度の教育機関を誘致する必要がある 	<p>新米お父さんお母さんのための子育て相談会を開催し、先輩ママや専門家との連携、おばあちゃんの知恵袋を活用しよう（シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談会の開催 ・専門家と連携 ・先輩お母さんに意見をもらえる会 ・おばあちゃんの知恵袋的なアドバイス
<p>多世代交流の場があるとよい（◎2人、○1人） （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えた交流の場（遊びを教える、子育てアドバイス） ・親にも相談できないことを話せる場がない ・若者にコミセンの情報が届かない ・自治会の加入率低下している <p>～現在のコミュニティセンターのイメージ～ （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓球・バドミントン ・飲食の場 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンがあるところも ・子どものおもちゃ ・古い図書コーナー ・古い喫茶店のような感じ ・ちょっと汚いところも <p>～コミュニティセンターに追加したい機能～ （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外でちょっと集える場所（ベンチなど） 	<p>コミュニティセンターに学生が勉強するところをつくる。ただ机とイスを設置するのではなく、勉強に使える資料を置いたり、ドリンクバーを設置することで、利用者を増やそう（シール投票数3票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強ができるところ ・普段は友達の家 or お店 ・歴史の漫画など、資料がいろいろ ・クールシェアスポット ・ドリンクバーでコーヒー／コーラ／ジュース（大人100円、子ども50円、お茶だけはNG） <p>夏休み期間中、不登校の子どもにボランティアの学生（大学生）が勉強を教える場をつくらう （シール投票数9票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行きたくないならコミセンへ ・夏休み期間不登校の子どもにボランティア学生が勉強を教える ・何かあったら専門部署と連携する ・若者の悩みを聞くプロがいる <p>地域の多世代にもっと集ってもらうために、転入の際にコミュニティセンターの機能を伝えたり小中学校と連携して子ども向けの情報を伝えよう （シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入の際、コミセンの機能を伝える ・回覧板で知ること ・大和市の集う場の魅力PR
<p>ご近所コミュニティが充実するとよい （◎2人） （意見の付箋）</p> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所間の交流充実（地域での見守り） ・コミュニティセンターの活用・一般管理がされていない 	<p>利用者や時間のある高齢の方に管理をお願いし、半官半民で運営する新しいコミュニティセンターにしよう（シール投票数13票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間のある高齢の方や利用者の持ち回り運営 ・事故を怖がってはいは広がらない ・半官半民で運営を ・常勤の人・決まった人がいる（コーディネーターとしても活躍）
<p>安全情報の発信が必要（○4人） （意見の付箋）</p> <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪発生時の市民への通達がない ・認知症患者や家族への配慮がない 	

5	夜間が不安（○4人） 〔意見の付箋〕 <ul style="list-style-type: none">・街灯が充実していない、夜間・暗い道が安全ではない・駅前の印象を良くする仕組みが必要・夜、安心して歩くために警備を強化する必要がある	
6	交通安全・道路の美化を促進したい（○3人） 〔意見の付箋〕 <ul style="list-style-type: none">・自動車・自転車・歩行者が安心安全になるような道づくり・歩道の安全（歩車分離）・道路上のタバコのポイ捨て	

●作業シート

新米お父さんお母さんのための子育て相談会②
 (先パイママ専門家との連携・おばあちゃんの知恵袋)

①
 コミュニティセンターに学生が勉強をする所をつくる。ただ机とイスを②
 設置するのではなく、勉強につかえる資料をかいたり、ドリンクバー③
 を設置することで、利用者を増やす。

④
 夏休み期間中、不登校の子供にボランティアの学生(大学生)による勉強を教える場⑤
 をつくる。

⑥
 地域のなかでバリエーションをもたせよう⑦
 転入の際、コミュニティセンターの機能を伝えたり⑧
 小中学校と連携して子ども向けの情報を伝える

⑨
 利用者や時間のある高齢者に管理をお願いし⑩
 半官半民で運営する新しいコミュニティセンターを!!⑪



■グループ3 子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり

○議論の流れ

- ・ 子育て中の参加者が一人もいない中、最初にテーマに対して理想と考えることを出し合った。
- ・ まず「学童に入れる児童が増える」「保育所にすぐ入ることができる」「子どもを預ける施設を増やす」等、共働き世帯が増えている現状を踏まえ、子どもを預けることができ、そこで同年代の交流が生まれるような施設の充実があげられ、様々な観点から子どもの居場所についての意見があげられていった。
- ・ 子どもが気軽に遊べる場を充実させたいという意見が多くあがった。公園が閉園になってしまいう例が多く、単純に公園の数が増えることはもちろん、ボール遊びなどができるような広いスペース、面白い遊具で遊べる公園など、子どもが居たいと思える公園が充実することが重要であるという意見があった。
- ・ また小さい頃から自然に触れる機会を十分に持たせることも意見としてあがった。一例として「観光花農園」「市民農園」等、市が運営・関連している農地での花植え等を、子どもが参加できるようにイベント化するというアイデアが出た。
- ・ 他市住人である高校生の参加者が、小学生の頃、小学校に近接したコミュニティセンターを、放課後等に有効に活用していたという体験から、小学校とコミュニティセンターの関係を向上させる意見・アイデアが多くあがった。大和市内では近隣小学校から徒歩10分以上かかるコミュニティセンターが多くあるが、物理的なハンデを乗り越える案として、小学生向けのイベントをコミュニティセンター側で積極的に企画すること、コミュニティセンターの「登録証」を小学校の授業で作ることといった意見が出た。さらにコミュニティバスの運行時間を下校時刻に合わせる、コミュニティセンター等子どもが行きたいだろう場所を巡る、前記の「登録証」をコミュニティバスのパスとして利用できるようにするなど、現在活躍中のコミュニティバスの新しい活用アイデアが多くあがった。またコミュニティバスに大和市の様々な情報を載せ、情報発信基地として活用できるとよいという意見もあがった。多くの案が、子どもがコミュニティセンターに興味を持つことによって、結果として親の子育てのサポートとなればよいという考えから生まれたものだった。
- ・ その他の案として、親が子育ての段階ごとに悩みへの対処法等を学べる場・機会の充実や、補助金制度の充実等、ダイレクトに子育てをサポートするアイデアもあがった。

理想・課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2 番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）		解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票 した数）
1	<p>コミュニティセンターがもっと小学校に近く、同世代や高齢の方との交流を深められ、学童の代替施設として使えるとよい（◎1人、○2人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターがもう少し小学校に近い ・子どもと高齢の方との交流スペース、システムなどの設置 ・同じ世代との交流がある ・学童に入れる児童（小学生）が増える 	<p>コミュニティセンターで小学生向けのイベントをど んどん企画して小学校にPRしていこう （シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校とコミュニティセンターの関係を近づける ・親もコミュニティセンターに興味を持つ
2	<p>子どもを預けられる施設が増えるとよい （○2人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを預ける施設を増やす ・保育所にすぐ入れる 	<p>小学校とコミュニティセンターの関係を近づけるた めに、コミュニティバスを活用しよう （シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスを下校時間に合わせて運行する ・コミュニティセンターの登録証を小学校で作成して、バス定期 としても使えるようにする
3	<p>働きながらの子育てや、子どもを安全に育ててい く仕組みがあるとよい 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く女性のための育児、子どもの安全を図るための支援の 仕組み（幼稚園、保育園、子ども学習センター） 	<p>コミュニティバスを、子育てに関する色々な情報を 得られる情報発信拠点にしよう （シール投票数5票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が「子育て」を学べる場、機会を充実させる
4	<p>親が“子育て”を学べる場、機会が充実していると よい（◎2人、○2人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が子育てについて学べる 	<p>「特定の子育ての悩み」を抱える前のタイミング毎 に、学べる機会を提供していこう （シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が「子育て」を学べる場、機会を充実させる
5	<p>子どもが気軽に遊べる公園などが充実していると よい（◎2人、○1人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に遊べる場がある、子どもが遊べる場が多い ・子どもの体力向上を図るためのスペースと場所、施設の確 保、整備を図る ・まちに公園があるといい ・遊具の多い公園 <p>自然が増え、もっと豊かになるとよい（○3人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長に必要な、遊べる支援の確保（小川、野、山、 林、魚釣り、ザリガニ、木の実） 	<p>子どもが遊びに行きたくなる道具のある公園の設置 や屋内施設の充実など、遊び場の選択肢を増やして いこう（シール投票数2票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが気軽に遊べる場を充実させる
6	<p>子育てに関する補助金制度が充実しているとよ い</p>	
7	<p>祖父母と一緒に暮らすとよい</p>	

●作業シート

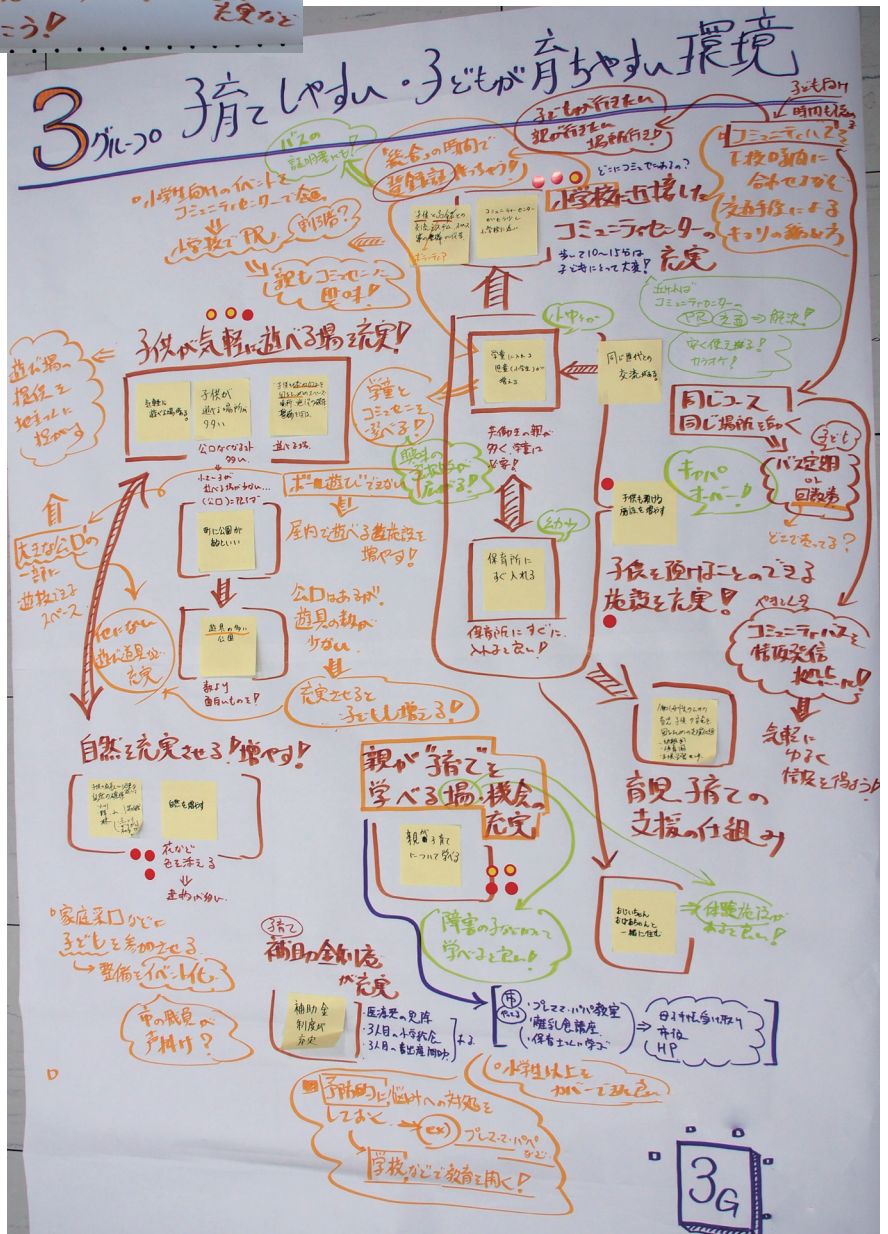
小学校とコミュニティーの関係近づけるために
 コミュニティーで小学生向けのイベントを企画して
 小学校にPRしよう！ ③

小学校とコミュニティーの関係近づけるために コミュニティバスを
 コミュニティバスの運行時間を下校時刻に合わせて、コミュニティの運行を
 (小学校で作成したバスの定期にもしよう、など...) ③

親が「子育て」で学べる場・機会を充実させるために
 コミュニティバスを色々な情報を得られる
 情報発信拠点にしちよう！ ⑤

親が「子育て」で学べる場・機会を充実させるために
 「特定の子育ての悩み」を抱える前のタイミング毎に
 学べる機会を提供しよう！ ③

子どもが気軽に遊べる場を充実させるために
 子どもが遊びに行きたくなる道見の本道の設置や屋内施設
 遊び場の選択肢を増やしよう！ ③



■グループ4 子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり

○議論の流れ

- ・ 最も多く意見が出されたのは、地域で多世代が子育てや子どもの見守りなどに関わる仕組みづくりである。放課後に子どもを預けられる施設や環境をつくり、シニア世代の応援も得ながら、子どもが高齢の方から学べたり、学生も参加し子育てを学ぶ場にもなったら良いというアイデアが出された。また、子どもの登下校の時間に、自発的に街角に立って子どもに声をかけをする取り組みを進めようという意見も出された。不審者と間違われぬよう、できれば複数人で実施していくと良いという意見が出された。
- ・ また子育てしながら働きやすくするためには、大和市内8カ所の駅のうち半数くらいに保育施設があると良いという意見が出された。そのため鉄道会社の協力も得られたら良いという意見もあった。
- ・ 子育てにはお金がかかるので、子育て世帯への助成金や、低額家賃の住宅、市民税の軽減などの補助メニューをつくり、子育て世帯に手厚い大和市をアピールすると良いという意見も出された。さらに、現在の市のホームページはかたいので、漫画等も取り入れて表現してはどうかというアイデアもあった。また、市の予算は限られているので、子育てにお金を投入するためには事業仕分けのような仕組みを取り入れてはどうかという意見が出された。
- ・ 子育てしやすい道路環境の整備という観点から、ベビーカーでも安心して通学路としても安全な歩道の整備や、自転車も安全に走行できる環境づくりが大切という意見が出された。
- ・ 大和市内には外国人が多いということ国際色豊かななどの良いイメージにしてアピールできないかという意見が出された。外国人との交流の場や外国語を学べる場をつくることなどで、子どもの語学力の向上にもなり、東京オリンピックに向けてメリットも生まれるのではという意見が出された。

理想・課題（論点・個別意見） （●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p>子育てしながら働きやすい環境があるとよい （●2人、○4人） 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅に保育施設をつくり、仕事も子育てもできるまち ・ 子どもを預ける場所があるかどうか ・ 大和市内8カ所の駅のうち、主要4カ所に保育施設ができるとアピールになる ・ 鉄道事業者にも協力してもらえないか 	<p>子育てしながら働きやすくするため、大和市内の4カ所くらいの駅に保育施設をつくろう （シール投票数10票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道事業者にも協力してもらおう

2	<p>地域社会で学生～シニアが交流しながら、子育てや見守りに関わる仕組みがあるとよい (●2人、○2人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人での子どもの預かり合いのシステムがあるので、それが広まることで、安心して子育てできる環境ができればいいと思う ・親が安心して子どもを預けることができる施設の設置 ・地域社会が常に子どもを見守る社会 ・小学校の放課後預かりが充実することで、共働きも可能となると思う! ・学生～シニアの方まで幅広く子育てできるまち ・子どもたちを地域で育てる、見守る仕組みづくり ・高齢の方の方たちから子どもたちが学べる施設や環境をつくる 	<p>地域の学生からシニアまでが関わって、子育てをサポートする仕組みをつくろう。子どもは高齢の方から学び、学生は子育てを学ぶ(シール投票数7票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の預かりや見守り ・何人かのシニアが子どもを見守る施設 ・シニアの応援も得ながら、お互いの家で子どもを預け合えるシステム ・学生が子育てを学ぶ場にも ・民間の「ママサポーター」制度がある。大和市でも登録者が増えているが、知らない人が多いのがもったいない。 <p>登下校の時間に複数人で自発的に街角に立ち、子どもに声をかける見守り運動をしよう (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の見守りだけでなく、自発的に実施する ・市がシルバー人材センターに声をかけ、ボランティアで見守りを呼びかけるのも良いのでは? ・近所の人が大体の下校時間を知っていてくれると安心
3	<p>子育て世帯に助成金や低額家賃の住宅、市民税の軽減などがあるとより魅力的な市になる (○3人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが高校や大学に通う時に、助成金などが充実していたら魅力的! ・子育て世帯の低額家賃住宅の建設と税制面などでの支援(補助金) 	<p>事業仕分けなどを行い、浮いたお金を子育て助成金や定額家賃住宅、市民税軽減に充て、ホームページで市内外にアピールしよう(シール投票数12票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・額は大きくなって良いので、全子育て世帯に補助等があるようにし、アピールする。 ・事業仕分けのような仕組みを取り入れ、子育てにお金を投入する。 ・大和市のホームページはかたい。漫画も取り入れて分かりやすくアピール。話題性もある。
4	<p>大和市の良いイメージづくりをしアピールを (●1人、○3人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際色豊かなまちづくり ・他県や近隣の市からわざわざ訪れたいと思うまち 	<p>外国人が多いことをプラスに捉え、国際色豊かなことをよいイメージとしてアピール。外国人との交流の場を増やそう(シール投票数8票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基地の人から英語を学ぶ、外国人との交流の場をつくる、など ・子どもの語学力の向上にも! ・東京オリンピックを見すえ、大和市の若者の語学力がアップしたら何かメリットがあるかも!
5	<p>緑と自然の豊かな公園があると良い(○2人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三世代で楽しむ自然豊かな広い公園 ・緑や自然を利用したまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・泉の森をもっとアピールする
6	<p>学校教育の評判が良い</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育や環境に問題がないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・越境入学や、学校のために引っ越す人を減らす
7	<p>親子で参加できるイベントがあると良い(○1人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青空市やフリマなどが開かれると良い
8	<p>子育て世代が仕事があって転入してくる(転出しない)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただのベッドタウンじゃない! 企業あふれる活気盛んなまちづくり 	

9	<p>ベビーカー、自転車、通学路が安全に通行できるとよい</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道が安全になっている(ベビーカー、自転車、子どもの通学路) ・安全に歩ける歩道づくり 	
---	--	--

●作業シート

4 子育てしながら働き続けたい。大和市内の4ヶ所くらいに馬に保育施設を。(小田原にもほかにある)

4 地域で学生からシニアまでが園わり 子育てをサポするしくみがいい(放課後の預りや見守り) 子どもは高齢者が学ぶ 学生は子育てを学ぶ

4 子どもの見守りは 登下校の時間に、できれば複数人で、自発的まわかに立ち 子どもに声をかけた運動をしていくようにする。

4 子育て世帯に 助成金や低額家賃住宅 市民税の軽減などがある。子育てにお金を投入するための、事業仕分のよい仕組みを導入 集中させる。とれホームベースでアパレルのマネージャーにしたい

4 外国人が多いと英語にたよる。国際色豊かなこともいいイメージアップ。外国人との交流の場を増やす。子どもの語学力向上。東京オリンピックでメリットあるかも。

子育てしやすい
子どもが育ちやすい環境づくり 4

一人ひとりの子育てを見守る施設
・お互いの家で子育てを預り合えるシステム
・シニアを援手

学生が子育てを学ぶ場にも
・自発的に見守りだけでなく、個人的に子育ての時間をつくるには子どもに寄り添うことが必要
・子どもは複数教員

地域で学生〜シニアまで子育て世帯見守りに関わりやすい
・民間の「マサボリ」制度がある。大和市でも養育者が増えれば、若い人、人財が増える。
・子育て世帯に助成金・低額家賃住宅・市民税の軽減
・子育て世帯に助成金・低額家賃住宅・市民税の軽減
・子育て世帯に助成金・低額家賃住宅・市民税の軽減
・子育て世帯に助成金・低額家賃住宅・市民税の軽減

ベビーカー・自転車・通学路が安全
・安全な歩道づくり
・安全な歩道づくり

国際色豊かな大和のいいイメージアップ
・外国人の交流の場を増やす
・外国人の交流の場を増やす

親子の参加できるイベントがある
・親子の参加できるイベントがある

子育て世代が仕事がある収入(20%)
・子育て世代が仕事がある収入(20%)

基礎の人から英語を学ぶ。外国人との交流の場をつくる。子どもの語学力向上にも。

■グループ5 “〇〇xしごと” 地域で働く環境づくり

○議論の流れ

- 前半の理想を出し合う場面では、「現在働いている世代を応援するまちになってほしい」という大きな目標のもと、一般的な雇用体系にとられない自由な働き方ができるまちになって欲しいという意見が多く出された。また、特に給与面や待遇面から、「子育て世帯」を応援したいという意見が多く出された。
- 後半は、働く世代を応援し、地域での雇用を生み出していくために、開業・起業の金銭的な支援を市が主体となって行って欲しいというアイデアや、介護職等のこれから必要性が高まってくる職種を対象に、資格や技術を学べるサポートを市が推進し、働く意欲のある市民を育てていくべきというアイデアも出された。
- 働く子育て世帯を応援するという視点からは、勤務時間を自由に設定できる企業の誘致や啓発、在宅で働ける環境を整えていくことも大切というアイデアも出された。
- また、時間に余裕のある高齢の方が有償で子どもを預かれるような仕組みをつくることで、高齢の方の雇用も確保しながら、働く子育て世帯をサポートでき、多世代交流にもつながるというメリットが得られるのではないかとアイデアも出された。
- さらに、大和市のブランドを形成していくために、豊田市のように有名な企業を誘致し、雇用を生みながら大和市ブランドづくりにつなげるというアイデアや、流山市のような「地域で働きやすいまち」としての暮らし方のブランドを発信していくという視点も重要であるという意見が出された。

理想・課題（論点・個別意見） （●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）		解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
1	働く世代を応援するまちになって欲しい (●1人、○2人) (意見の付箋) ・働く世代を応援 ・深夜でも会社帰りにお店が営業中 ・歯医者、銀行が近くにある	働く世代を応援するまちにするために、開業・起業に向けて市が金銭的な補助をしよう (シール投票数0票) ・開業や起業の金銭的なサポート（貸与等）を行うことで、多くのお店や働く場ができ、雇用も増えまちが元気になる
2	新しい技術や職能を身につけられる場があるとよい (○2人) (意見の付箋) ・技能を身につけたい、場所をつくる	働く世代を応援するまちにするために、介護職などの必要とされる資格や技術を学べるサポートをしよう (シール投票数6票) ・介護職などの、これから特に必要とされる職種の資格や技術を学ぶためのサポートができるとよい

3	正規雇用する職場が多いまちになるとよい (意見の付箋) ・雇用会社がたくさんある、正規雇用 ・就職する場所(企業)がたくさんある	共働きを推進するために、勤務時間を自由にできる企業の誘致や、在宅で働ける環境づくりをしよう (シール投票数 1 票) ・勤務時間を自由に設定できる企業の誘致 ・コワーキングスペース等の整備
	ITを活用して、自宅勤務ができる環境があるとよい (意見の付箋) ・ネット活用	
	大手・知名度のある企業を誘致できるとよい (○1人) (意見の付箋) ・多様な分野の仕事ができる職場	
	ダブルワーク、ダブルインカムを学べる、できる場があるとよい(●1人) (意見の付箋) ・それぞれの場でいつも勤務ができる環境	
	リフレッシュしながら働けるまちになるとよい (●2人) (意見の付箋) ・ストレスなく働けるまちになるとよい ・週に2日は休みがある	
4	多様な世代の交流を促進できるとよい (●1人、○1人) (意見の付箋) ・それぞれ世代が他世代を必要とする暮らし	多様な世代の交流を通じて、世代を横断した助け合いが新しい雇用を生む仕組みをつくらう (シール投票数 3 票) ・時間に余裕のある高齢の方が有償で子どもを預かりながら、子育てしながら働く世代をサポートし、多世代交流につなげる
5	大和市の知名度を向上させたい(○3人) (意見の付箋) ・○○で有名な大和をつくる	“○○”で有名な大和市ブランドをつくるために、ランドマークや企業の誘致、新しい暮らし方を発信しよう(シール投票数 10 票) ・豊田市のように有名な企業を誘致することで、雇用を生みながら法人税を確保し、大和市のブランドづくりにつなげる ・商業施設などのランドマークを誘致し、大和市のブランドづくりにつなげる ・「地域で働ける大和市」としての暮らし方を大和市ブランドとして発信する
6	外で働けるように交通の利便性をUP(○1人) (意見の付箋) ・JR誘致	
7	短期的な見通しを持てる社会になるとよい (意見の付箋) ・数年後の自分の暮らしが予見できる	
8	60歳を過ぎても働ける環境があるとよい(○2人) (意見の付箋) ・60歳を過ぎても自由に働ける環境がある	

9	<p>大和市のまちづくりに自由に意見をいえる仕組みがあるとよい</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の意見交換会がたびたび行われる 	
10	<p>収入がしっかり貰える環境だとよい</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給料がよい 	

●作業シート

5G | 働く世代を応援するまち① 新田 誠

農業・起業向けに市の金銭的補助を

5G | 働く世代を応援するまち②

介護職等の職業に資格や技術が必要なサポート

5G | 共働きを推進するために、27777

勤務時間の自由な企業誘致や在宅ワーク環境

5G | 多様な世代の交流を通じて、高齢者の孤立を解消し、世代を横断的な助け合いの場を創出する

5G | "〇〇"で有名な大和のまちをつくる 10



■グループ6 “〇〇xしごと” 地域で働く環境づくり

○議論の流れ

- ・ 地域で働く環境づくりについては、主に若者、子育て世代、高齢の方を対象として意見交換を行った。
- ・ 高齢の方の働き方については、自らが施設に入る前にその施設で働くことで、自分が入居する際の心の準備や現在の居場所ができるので、この体制を循環させることで、市民である高齢の方の働く場所もでき、勤務者も確保できるという意見が出された。
- ・ 専門性を活かした高齢の方の働き方については、まず一般企業や行政の受皿を広げることが必要であるが、自らが得意分野をPRすることも必要で、双方のマッチングができる窓口があるとよいという意見が出された。また高齢の方も他世代と同様に社会的な役割を果たせる仕

事を行えて、一般と同様の待遇で勤務できる体制があるとよいという意見が出された。

- ・ 子育て世代の働き方については、子どもを預けながら安心して働けるよう、自宅や駅付近の託児所や遅くまで預けられる託児所があること、子どもを育てながら自宅で仕事ができる在宅勤務体制を会社で取り入れるという意見が出された。
- ・ 若者の働き方については、若者が働きたくなるような魅力的な企業を地元へ誘致するために、企業の税制優遇や好条件の土地提供などを行い、同時に地域活性化のため、周辺環境の都市計画も検討する必要があるという意見が出された。

理想・課題（論点・個別意見） （●グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p>地域の人の働く場にもつながる高齢の方向けの施設があるとよい（●2人、○1人）</p> <p>〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が高齢の方向け施設に入る前に、その施設で働くというローテーションをつくる（市に頼るだけではなく市民自ら動く。人手を確保し続ける体制をつくる。将来は自分も施設に入るという気持ちで働ける環境） 	<p>将来、自分が入居することを見据え、今入居している世代のために働けるような市民参加型の高齢の方の住まいをつくらう（シール投票数4票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護よりも日常的な診療が大切・高齢の方向け施設が高額なため、将来お世話になるだるう方にも勤務してもらい利用費も安くする ・ 清潔感や明るさなどに配慮した環境改善を行い、働きたくなる人を増やす ・ ご夫婦の一方が先立たれ、残された方の居場所として、高齢の方向け施設で働くことも考えられる ・ 高齢の方向け施設で働くことで、入居する際に優先権を得られるシステムをつくる ・ 高齢の方向け施設の情報周知をしっかりと行うことも大切 <p>※高齢の方向け施設は介護施設ではなく、高齢の方専用住宅のイメージ</p>

2	<p>子育てと仕事を両立できるまちになるとよい (●2人、○2人) 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が働きやすいよう、多様な働き方を提供できる会社があるとよい ・子育て世代が子育てと仕事を両立できるよう、定時に仕事が終わるような環境があるとよい <p>自宅付近で働ける環境があるとよい (○1人) 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅や駅付近で働けると子育て世代も働きやすくなる <p>職場だけでなくリフレッシュできる場所がまちの中にあるとよい (○1人) 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が終業後に友人と会い話して息抜きできる場所があるとよい(飲食店など。気分転換できるのでよい。現在は少ないので市外へ出てしまう) 	<p>子育て世代が働きやすい多様な選択肢を提供できるように、駅近くの託児所、夜間対応の保育園、在宅勤務などを推進しよう (シール投票8票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅付近に託児所をつくる ・遅い時間まで子どもを預けられる市運営の保育園をつくる ・預けた子どもを時間通りに引き取りに行けるよう、終業時間がしっかり決められる勤務体制をつくる ・パソコン等を活用して在宅勤務ができる会社の体制をつくる
3	<p>高齢の方が専門性を活かして働ける環境があるとよい (○2人) 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通訳、マーケティング、教師、庭仕事など高齢の方の専門性を活かした職場をつくる ・高齢の方でも一般と同様の勤務条件で働ける体制があるとよい(他世代と同様に専門性を活用した場合の待遇を受けられるようにする) ・市広報では生涯学習の一環として臨時講師を募集している 	<p>高齢の方や障がい者がいきいきと働く環境をつくるために、専門性を活かした働く場とのマッチング、ネットワークづくりの支援をしよう (シール投票数2票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア勤務専門の会社を立ち上げる(大企業では実施済) ・シルバー人材センターの発展型として、市で人材派遣を行う ・小中学校では英語教師の補助として、その学校の教師を引退したと思われる方が働いていた ・まず高齢の方を受け入れる受皿を広くすることが必要 ・高齢の方の就職希望と受入側の希望をマッチングする相談窓口があるとよい ・自宅付近の掃除などではなく、高齢の方が社会的な役割を果たせる場所が欲しい ・将来の人口減少を念頭におきながら高齢の方の就業を検討する必要がある
4	<p>若者が働きたくなるような労働条件のよい企業が不足している (●1人、○1人) 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が働きたくなるような労働条件のよい企業があるとよい ・最近では企業誘致が減ってきている 	<p>若者にとって魅力的な企業を誘致するために、短期的には企業育成、税制優遇、長期的には都市計画プランニング、交通の利便性向上などを検討しよう (シール投票数10票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への税制優遇、好条件の土地提供 ・予め企業誘致できそうな土地をの交通の便をよくしておく ・土地や都市計画など周辺環境も含めたまちのプランを行政計画として立てることで、周辺に人が集まりまちが活性化する
5	<p>市民も市も互いにメリットがあるように、市からの一方的な情報提供だけにならないようにして、高齢の方も含めた就職のマッチングができるとよい (○2人) 〔意見の付箋〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢の方も含めた就職情報を入手できる体制があるとよい ・市民も行政もお互いにメリットがあるように、市民も自ら専門技能等をPRする 	<p>市民と市が相互に情報交換しながら、仕事をマッチングする仕組みをつくらう (シール投票数1票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人から行政へ自分ができる仕事をPRする ・行政が幅広く情報を受け入れる体制をつくる ・企業と就職したい個人が直接交渉できる体制をつくる ・交流の場で情報交換を行う(掲示板、HPなどの手法もある)

6	<p>(その他の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性では、「住まい」と「職場」の距離について、意識に違いがあることを把握することが必要 ・市では市民活動を支援する補助制度がある(年1回募集) 	
---	--	--

●作業シート

① 市民参加型の高齢者の住みづくり
 ～世代間のバリエーション～ 自らの将来を見据えて

② 子育て世代が働きやすいための選択肢の提供
 ～馬場の視察所、夜対応保育園、在宅勤務等～

③ 高齢者(障害者)が活躍しやすくなるための専門性を活かした働き場の提供
 ～マッチング、ネット等～

④ 若者にとって魅力的な企業を誘致する (短期的かつ中期的)
 ～企業の育成、税制優遇、フリースクール、友利利用等～

⑤ 求人募集のマッチングを制度で整える
 ～情報交換の場の提供(手元が稼い)～

⑥ 地域で働く環境づくり ○○×仕事

若者、子育て世代、高齢者、障害者...

① 働く環境づくり
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)

② 働く環境づくり
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)

③ 働く環境づくり
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)

④ 働く環境づくり
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)

⑤ 働く環境づくり
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)

⑥ 働く環境づくり
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)
 働く環境づくり(環境づくり)

■グループ7 年をとっても、いつまでも住み続けられるまちづくり

○議論の流れ

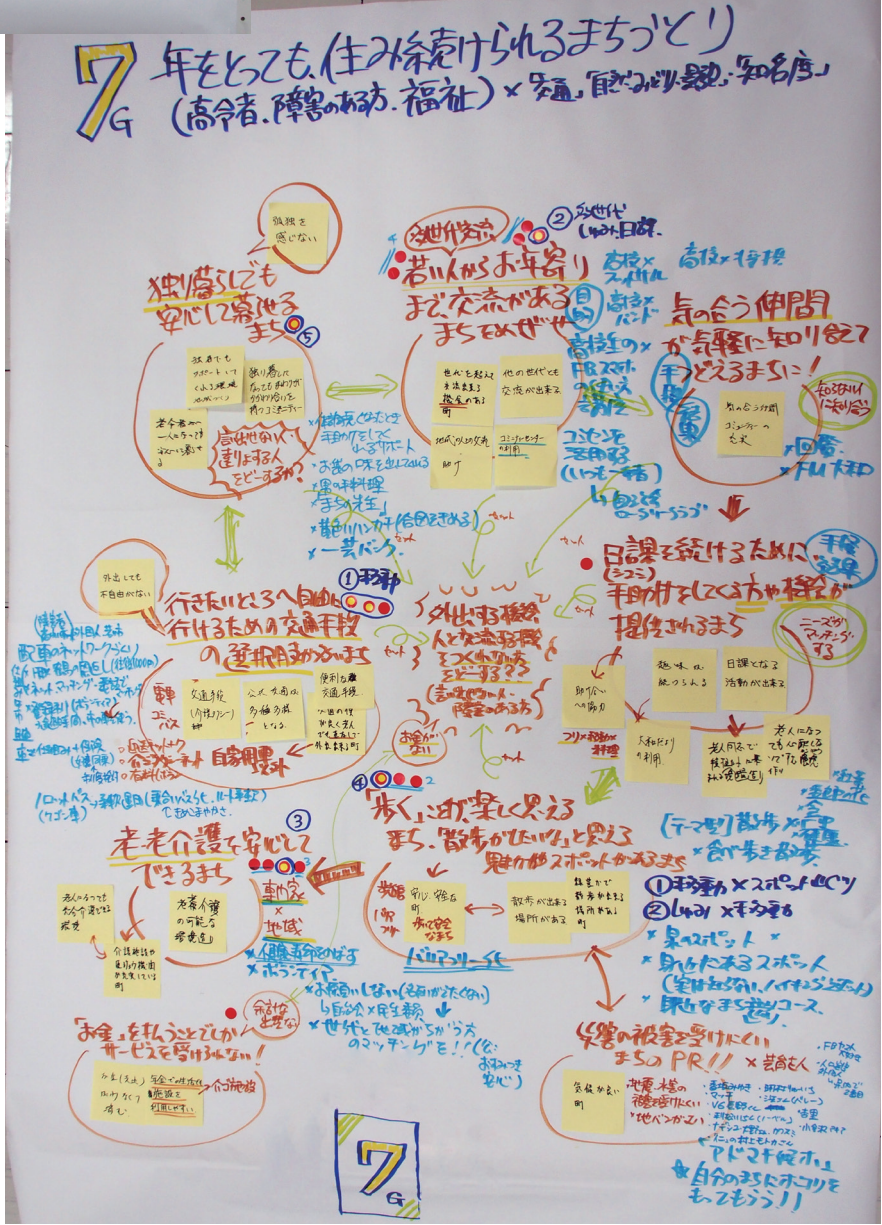
- ・ テーマの実現に向けて「助け合いの仕組みづくり」「多世代交流の促進」「外出しやすい環境づくり」「PRの工夫」と大きく4つの取り組みの方向性とアイデアが出された。
- ・ 「助け合いの仕組みづくり」については、年齢を問わず、独居男性は特に孤立しがちであるため、ご近所で異常に気づき合えるように、近所同士だけがわかる「合図」を決めておくというアイデアが出された。また、これからさらに増える老老介護世帯が安心して生活できるように、世代や住む地域が違うことで「むしろ助けを頼みやすい」ボランティアの登録・派遣システムを充実させるというアイデアが出された。
- ・ 「多世代交流の促進」については、交流というハードルが高いため、「趣味の共有」や「学びの場での出会い」といった興味や関心をベースとした参加の場を作ることが効果的という意見が出された。具体的には、地域の方々がお互いの趣味を通じて出会ったり、特技や得意分野を教え合う機会をつくる情報源として「一芸データバンク」をつくるアイデアが出された。
- ・ 「外出しやすい環境づくり」については、移動手段の多様化や選択肢の増加という課題が確認された。解決策の1つとして、特に、障がいのある方や高齢の方など、現時点で移動手段の選択肢が限られる方々を主な対象として、ネットや電話で予約すれば自宅前まで迎えがくるようなオンデマンド交通の仕組みをコミュニティバスを活用してつukれないかというアイデアが出された。また、外出の機会が増えると、健康寿命がのびることにもつながるため、身近な地域単位でテーマ型のちょっとした散歩コースを増やすというアイデアが出された。
- ・ 「PRの工夫」については、立場、年齢を問わず、住み続ける1つの要素として、居住者が大和市に誇りを持つ重要性が確認され、そのために、例えば「災害の被害を受けにくいまち」であることや「大和市から多くの著名人を輩出している」など、市の魅力を様々な視点で発掘し、効果的にPRするというアイデアが出された。
- ・ 最後に、こうした取り組みを進める一方で、様々な理由で地域との交流機会がつかれない方を孤立させないことが重要課題であると同時に、その理由の1つに「金銭的困窮」があるという指摘があり、「お金がないとサービスが受けられない・交流機会等への参加ができない」といった環境にしてはならないということが確認された。

理想・課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）		解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
1	<p>移動手段の選択肢が多いまちになるとよい （◎2人、○1人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出しても不自由がない ・介護タクシーなどの柔軟な交通手段 ・公共交通が多種多様となる ・便利な交通手段 ・交通の便がよく、老人でも車なしで外出できるまち 	<p>行きたい場所や時間帯に柔軟に対応する公共交通の仕組みをつくらう（シール投票数7票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスを乗り合いバスのような仕組みにする ・ネットや電話で予約すれば自宅前までバスがくるようにする ・障がい者や高齢の方が優先だが、外国人や子育て世帯も使えるように広げていく ・自家用車を出せる方、乗りたい方をマッチングする、ボランティア登録の仕組みがあるとよい ・好意で人を送迎する「好意同乗」で事故があった場合、保険が適用されないのが問題。法制度自体の見直しが必要である
2	<p>若い人からお年寄りまで、多世代の交流があるまちをめざそう（◎1人、○4人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えて交流できる機会のあるまち ・地域の人との交流や助け合い <p>日常生活や趣味を続けるために、手助けしてくれる方や機会が提供されるまちになるとよい （○1人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合いへの協力 ・趣味が続けられる日課となる活動ができる ・老人になっても心配しないで済む環境づくり ・老人同士で継続的に暮らせる環境づくり 	<p>各世代が持っている得意分野を教え合う機会をつくれるように「一芸データバンク」をつくらう （シール投票数3票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流のきっかけとして一芸や趣味を教え合うのがよい ・「まちの先生」制度の確立 ・高校生が高齢の方にスマホの使い方を教える ・高校生と大人がバンドセッションやダンスをする ・おばあさんが若者に料理を教える ・コミュニティセンターをうまく活用する ・「広報やまと」や回覧をうまく活用する
3	<p>老老介護を安心してできるまちになるとよい （◎1人、○3人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老老介護の可能な環境づくり ・老人になっても介護できる環境 ・介護施設や医療機関が充実しているまち 	<p>助け合って介護ができるように、公共医療機関の充実や専門家との連携とともに、「世代」「地域」が違うボランティアの方との協力関係を築こう （シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会や民生委員が介護の手助けを頑張っているが、顔見知りだと頼みにくい ・世代や住む地域が違う顔を知らないの方が頼みやすい ・市からの「おすみつき」があるボランティアが派遣される仕組みだと安心である
4	<p>「歩く」ことが楽しく思えるまち、「散歩がしたいな」と思える魅力やスポットがあるまちになるとよい（◎1人、○2人）</p> <p>（意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて安心・安全なまち ・散歩ができる場所がある ・緑豊かで散歩ができる場所があるまち 	<p>まちのバリアフリー化とともに、身近な地域を回れる「テーマ型」の散歩コースをつくらう （シール投票数0票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出の機会として歩きたいと思える散歩コースをつくる ・「歩くこと」で健康寿命を延ばす ・身近な地域にも面白い歴史がある。歴史散歩コースは面白い ・おいしいもの巡りコース ・紅葉コース、桜コースなど季節限定コースも楽しい ・「健康寿命アップ宣言」をする

5	<p>一人暮らしでも安心して暮らせるまちになるとよい (●1人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢の方が一人になっても安心して暮らせるまち ・ 独身でもサポートしてくれる地域環境づくり ・ 一人暮らしになっても周りが関わり合いを持つコミュニティ 	<p>身近な知り合い同士だけが知っている「合図」をつくらう (シール投票数0票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご近所で助け合える、異常に気づき合えるように、近所同士だけがわかる「合図」を決めておく ・ 体調が悪くなったときに手助けしてくれるサポート体制づくり ・ 独身者に、近所の方が「お袋の味」を提供する仕組みづくり
6	<p>災害の被害を受けにくいまちのPRができるとよい</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候がよいまちである ・ 地盤がよい、地震、水害の被害を受けにくい 	
7	<p>気の合う仲間と気軽に知り合えて、つどえるまちになるとよい</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気の合う仲間がつかれる、知らない人とも知り合える ・ コミュニティが充実 	
8	<p>「お金」を払うことでしかサービスを受けられないまちにたくない (○1人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金(支出)が少なくて済む ・ 年金での生活でも施設を利用しやすい ・ 余計な出費がないまち 	
9	<p>自分のまちに誇りを持ってもらうためのPRが大切である</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大和市出身の有名人・芸能人がたくさんいる。 <p>(例) 香坂みゆぎ、河村隆一、近藤真彦、V6長野、杏里、利根岸博士(ノーベル賞)、大野選手・川澄選手(なでしこジャパン)、村上もとか(JIN〜仁〜の作者)、浜恵子(バレーボール・オリンピック選手) など</p>	
10	<p>外出する機会や人と交流する機会をつくれないうちも孤立しないまちになるとよい</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある方が住みやすいまち ・ 自分から希望を言い出せない方が問題 ・ お金がない方は、遠慮やあきらめで外に出てこない 	

●作業シート

- 7 行きたいところ自由に行けるための移動手段の確保が
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 7 気の合う仲間と世代を超えて知り合えるようにする
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 7 老老介護を安心してできるまでにするために、
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 7 「歩く」を楽しく思えるようにするために、
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 7 独りぐらしでも安心して暮らせるまでにするために、
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿



■グループ8 年をとっても、いつまでも住み続けられるまちづくり

○議論の流れ

- ・ 実際に家族の介護を現在行っている方やかつて行っていた方、かつて介護職員であった方など当事者を含む6名で検討した。
- ・ 「医療の充実」については、市内に適当な病院がなく市外の病院を紹介され、通いづらい、入院期間は一時だが、退院後通院するのが大変であるという意見が出された。しかしながら、市立病院の拡充は、広域的な観点などもあり、市の判断のみで行うことは難しいと市からの説明があった。
- ・ 「リーズナブルな価格で入居できる介護施設」については、最近市内でも、施設整備が進んでいるようだが、民間施設が多く高額になると、夫婦が入所するのが難しく心配であると言ったことや、必要になったときにすぐに入所できるのか不安という意見があがった。介護施設の配置には、行財政も含め、様々な制約があり、大和市独自の展開が難しいという市からの説明があった。
- ・ 年を取ってもいつまでも住み続けるために、市民としてできることは、まずは施設や医療に頼らない健康寿命を延ばすことが重要だとし、身体を動かしたり、いつまでも外に出かけたいと思わせるためのアイデアを検討した。例えば今人気のあるマラソン大会のあとに、みんなで美味しいものを食べたり飲んだりする楽しみや、マラソンをきっかけに恋愛に発展するような楽しみがあってはどうかというアイデアが出された。
- ・ 「支えあいができる関係へ」については、助け合いが充実すると良い、介護など深刻なことだけでなく、ちょっとしたことで相談できたり頼むことができるが良いといった意見のほか、マンションのようなプライバシーの守られた生活ではどこまで近所の人に頼んでいいのか難しい、近所の方と知り合うきっかけがない、といった意見が複数出された。関係づくりのきっかけとして、身近に集まれる場所をつくることや高校の文化祭など季節のイベントを活用する解決アイデアが出された。互いが知り合う場も、初めて訪れるときは緊張したり、敷居が高いので、初めてでも打ち解ける雰囲気をつくれるように、コーディネートしてくれる人が大切といったアイデアや季節のイベントは、名目があるため集まりやすいといったアイデアが出された。
- ・ まちのつくり方としては、家の外と家の中のバリアフリー化、建物ではいろいろな機能が集積化され、まちを歩いていてもどんな機能が入っているのかが分からないので、分かりやすくシンプルなまちづくりが、みんなにとって使いやすいのではないかと意見が出された。

理想・課題（論点・個別意見） （◎グループの中で最も重要度が高いものとして選んだ人数、○2番目、3番目に重要なものとして選んだ人数）	解決アイデア（短冊・個別意見） （シール投票数：グループ発表後、参加者が大切だと感じて投票した数）
<p>1</p> <p>病院が市内にたくさんあるなど医療が充実すると良い（◎1人○4人） （意見の付箋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな病院が少ないので、他市の病院を紹介され、通うのが大変 ・ 医療の充実。大きい病院の他に、訪問介護やかかりつけ医などいきなり大きな病院に行かなくても分担できると良い 	<p>（施設や医療に頼らなくても良くなるよう）健康寿命を延ばせるように、楽しく身体を動かす機会をつくらう（シール投票数16票）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン大会後に美味しいものを食べたり、給水所で名産が食べられる、仲間とお酒を飲める ・ 共通の趣味を通じて恋愛に発展すれば、はり合いもできる

2	<p>リーズナブルに入居できる高齢の方向けの施設がない (●1人○1人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安い介護施設の充実 	<p>施設に入居しなくて済むよう、それぞれに合った就業サポートをし、自立した生活を支援しよう (シール投票数 6 票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要としないための予防が必要 ・施設利用は最後の数年に留め、姥捨山にしない ・孫を面倒みるなど、仕事をつくる ・ストレスをためない ・ジョブコーチのような、それぞれの人に合った就業支援や紹介をしてくれる人がいる
3	<p>身近な人と支えあいができる関係があるまちになると良い (●2人○3人)</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに助けてくれる人がいるまち ・近隣の人との交流がもっとうまくできると良い ・助け合いが充実して居心地良い所 ・身近に相談できる人がいる 	<p>支えあえる関係をつくるために身近に集まれる場やイベントをつくろう (シール投票数 5 票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の文化祭は地域の人がかかることも歓迎している。そうした場を活用する ・季節ごとのイベント (花火、クリスマスなど) は利害関係もなく、きっかけをつくりやすいので、そうした場を利用して近所の人が集まれるようにする
4	<p>身近に集まって交流できる場があり、気軽に参加できると良い</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会所 ・近くに出かける場所がある ・さまざまな世代のためのイベント・場 ・楽しい場所がある 	<p>集まれる場に気兼ねなく参加できるように地域のコーディネーターを発掘しよう (シール投票数 7 票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地の空き部屋を活用してお茶飲み場など、毎日行けるような場所があるとよい ・入りやすい場が必要。すでにコミュニティができていると入りづらい ・参加者に声をかけてくれる人が大事 ・子どもがいるときっかけをつくりやすい
5	<p>移動手段が充実すると良い</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシーが分かりづらい ・移動手段の充実 ・平坦な道路を(切り下げで車いすの介助がしにくい) ・外に出ようとしにくい 	
6	<p>多様な世代が暮らしやすいまちづくりができる</p> <p>(意見の付箋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンプルなまちづくり (建物が高層化・集合化されると目的の地を探しづらい) ・充実した施設 (全世代が使いやすくし、若者向けにしない) ・屋内外のバリアフリー 	

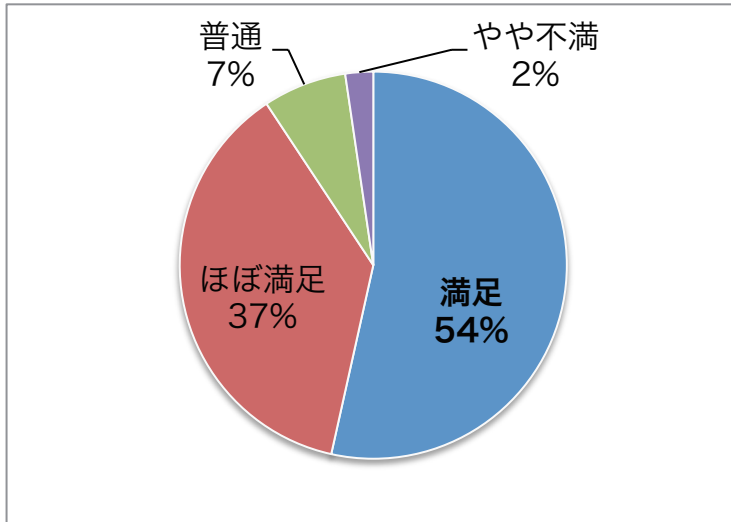
●作業シート

- ① 支えあえる関係をつくるために
 ● 集まる場を作る (高校や大学の文化祭、休日や夏休みのイベントなど)
 (グループ)
- ② 集まる場に気兼ねなく参加できるように
 ● コーディネートしてくれる人が必要 (お世話好きな人、いろんな情報を知っている人)
 (グループ)
- ③ 仕事があることで介護を必要としない
 ● ⇒ それぞれに合った仕事を指導サポートがいる (介護コーディネーター)
 (グループ)
- ④ 健康寿命を延ばせるように
 ● 楽しく体を動かす機会をつくる (マリン大会、美味いもの食べ会、仲間を会える、楽しく遊べる)
 (グループ)



3. 参加者アンケートのまとめ

Q.本日の市民討議会はいかがでしたか？（満足・ほぼ満足・普通・やや不満・不満）



満足	23
ほぼ満足	16
普通	3
やや不満	1
不満	0
計	43

*未回答：1

●具体的な回答（抜粋）

○世代を超えた様々な人と意見交換ができ、新しい発見ができた

- ・ 世代を超え、性別、職業も違った人と意見交換ができた。
- ・ 世代間で様々な意見が聞けた事が良かった。若い世代の方々は、安心安全に対しての意識が高いところが新鮮だった。
- ・ 色々な意見が聞けて良かった。自分が考えていなかったところもあり、新しい発見があった。
- ・ 各世代の方と素直に討論できた。
- ・ 学校では聞くことのできない幅広い世代の人から色々な意見が聞け、自分の意見も出すことができ、楽しく話せた。
- ・ 議題が考え易く、広い世代で話し合えて良い経験になった。

○自分の意見が伝えられ、暖かい雰囲気、有意義な機会だった

- ・ このような場に初めて参加した。自分の伝えたい意見は言うことができた。他の参加者も真剣に話し合いに参加しており、有意義な市民討議会だったと思う。
- ・ 自分の考えをしっかりと伝えられた。
- ・ 自分の意見を積極的に取り入れて頂き、和気あいあいと、有意義な討議会であったと思う。
- ・ 皆さんの雰囲気が暖かかったので発言がしやすかった。
- ・ 期待していた以上に、参加者全員が自由活発に討論していた。

○これまで知らなかった大和市のこと、市の取り組み・課題について知ることができた

- ・ 市の取り組みについて知る事ができた。
- ・ 大和市内で活用している施設のことを聞く事ができた。
- ・ 大和市に住んでまだ1年半だが、地域の課題や特色について知ることができ、参考になった。

○自分自身の成長やこれからの生活の学びになった

- ・ 様々な意見を聞く事ができて、自分自身の想いも、発表することができ、私の成長にもつながった。
- ・ ディスカッションの本当のあり方を見つけることができた。
- ・ 様々な世代の方たちと意見交換ができて、自分自身の気づきとなった。
- ・ 様々な世代の、様々な意見を聞くことができ、今まで考えもしなかったような暮らしの中での問題やアイデアを発することができたので、これからの生活に活かしていけると思った。

○若い年齢層の能力の高さに驚いた

- ・ 若い年齢層からの建設的な意見、希望が提案されたことが良かった。若い高校生のプレゼンテーション能力の高さに驚いた。若い人たちが力を発揮できるようなまちづくりが必要。
- ・ 高校生の参加と発表が素晴らしいと思った。

○進行役がいることで、意見が伝えやすかった

- ・ 最初は不安だったが、進行役のサポートで楽しく話せた。
- ・ 進行役がそれぞれの班に1人いて、意見を気軽に伝えやすかった。
- ・ 進行役がいたので皆の意見を反映させられた。
- ・ 進行役の参加により効果的な討論ができた。
- ・ 進行役の方のおかげで頭が整理できて良かった。

○もう少し時間があれば良かった

- ・ もっとフリートークの時間があればより良い意見が出たと思う。
- ・ 1つのテーマについて深く話しきれなかった所もあり、もっと時間があれば良いと感じた。

○大和市に住むことについて考える機会になった

- ・ 大和市を住みやすくするのは、私達であると実感できた。
- ・ もう少し大和市に住み続ける事など、考える機会になった。

○その他

- ・ 市を良くしようとする意欲が感じられる各世代の意見が聞けた。
- ・ 市に対して語り合う事はなかなかないので楽しかった。
- ・ 2回参加したが、どちらとも満足！！意見が出しやすかった。
- ・ 今日挙げたアイデアの結論、採用されたかななどの後日談的な報告が欲しい。
- ・ もう少しテーマ材料を幅広く提供して欲しい。
- ・ 内容が一般的で新しい発想が見られない。

Q.市民討議会での他のグループの発表をふまえ、追加したいアイデアや話し足りないことがございましたらお書きください。(抜粋)

●「観光」に関すること

- ・ 大和市には観光のイメージがない。
- ・ ヤマトンの存在（他のゆるキャラと比べ存在が薄い）。
- ・ 人を流動させるテーマパーク等の誘致を考えたい。
- ・ 公園整備の一貫としてシニアと子ども達で花いっぱい運動を行い、自分達で手作りの公園をつくる。
- ・ 観光できる、遊べる場所があるといいと思う。（スポーツ施設、キャンプ場、花見等）
- ・ 家族を中心にレジャーが楽しめる施設づくり。四季を通して公園街路樹が美しい町並み。
- ・ 文化都市を確立し、人の交流を活発にして欲しい。芸術作品の展示、音楽、コンサートの開催等。
- ・ 泉の森をアスレチック化し、子どもから学生が童心にかえられるようなのんびり広々とした場所をつくる。
- ・ 東名高速の大和インターをつくって欲しい。今以上に、映画ドラマ等の撮影に使われると思う。
- ・ 温泉がほしい。
- ・ 大きなショッピングモールを増やしたり、観光スポットなど、大和にわざわざ来たくくなるようなものをつくってほしい。
- ・ 大和市をPRする〇〇ブランドなどがあるのはいいと思う。

●「安心・安全」に関すること

- ・ 最近、火山の活動が多くなり、災害、防災の意見交換が必要。
- ・ 交番の数を増やしてほしい。

●「子育て／教育」に関すること

- ・ シングルマザーの対応方法を考える。
- ・ 金銭的な支援と地域社会支援が大切ではないか。大学の誘致が必須（研究機関等）→雇用の拡大。
- ・ 昨今、共働きが多くなっていると感じる。子どもを預けられる環境、支援が充実しているのか心配。（待機児童が、今後、どれ位減らせるのか等）
- ・ 社会が子どもを育てる環境、制度づくりが必要。（ex シルバー、外国人等々の活躍）。
- ・ 共働き夫婦のサポートシステムが必要。
- ・ 運動による体力向上のため、グラウンド、公園、遊び場等の確保と整備を図る。
- ・ 地域全体で“子育て”をする。
- ・ 子どもの貧困が問題となっているが、高校受験の為、日々の授業の補習として、無償の塾があればいいと思う。NPOと協力するなどして、出来ないものか。
- ・ とても力を入れて頂いていると思う。
- ・ 助成金や新米パパ、ママに優しいまちもいい。自分が将来住みたくなるまちに。

- ・ 株式会社「Asmama」（アズママ）というシステムがあるので、ファミリーサポートと同様に、市からも紹介していただき、頼り合いのできる地域のつながりをつくっていったら、シニア世代も子育て世代も活気づくと思う。1時間500円での預かりなので、シニア世代の仕事&収入となる。

● 「仕事」に関すること

- ・ シニアに対して仕事が少ない。
- ・ 介護職員が足りないのに、高齢の方の施設が増加している。
- ・ 若い人達がいきいきと働ける企業の誘致を積極的にして欲しい。
- ・ 町工場など、地元を支える工業等のアピール。
- ・ 求人と募集がマッチング出来る仲介者としての行政の関わり。
- ・ 全国的に有名な企業の誘致に力を入れて欲しい。
- ・ 企業誘致も大切だが、良い企業の育成も必要かと感じた。
- ・ 大和市に多くの企業を誘致し、働く人々の仕事場を増やし、税収等の向上を図ることが必要。
- ・ 高齢の方は能力が低いいため会社は使いづらい。

● 「高齢・福祉」に関すること

- ・ 市民参加型ボランティア等の活用。
- ・ マンション建設の規制、見直し。
- ・ 若者と高齢の方が共生できて、疎遠になっている方々が集まれる場所の提供が必要。
- ・ 高齢の方の住居支援や働く場を設ける。その際の支援も必要。
- ・ 高齢の方思いの意見が多かった。
- ・ 敬老特別乗車証、福祉特別乗車証をつくって欲しい。
- ・ 医療設備、介護施設の補充などはもとより、医療費等を削減するため、健康指導、認知機能維持のための運動、指導を更に整備して欲しい。長野県等の事例も（健康寿命の指導・促進）。
- ・ バリアフリーの施設や設備をもっと増やす。
- ・ 介護施設の充実がやっぱり1番重要。

● その他

- ・ 空き家が多い様に思われ、高齢化が進むにつれ、防犯対策や、空き家の活用が増えるのでは。
- ・ 空き家の利用（コミュニティの利用になれば）。
- ・ 特産物を作り出すことや知名度を上げる工夫が必要だと思う。
- ・ ゴミ出しについて、指定ゴミ袋を利用し、各戸で出しているのに、美化につながっていると思う。その反面、仕分けが面倒という方もいる。
- ・ ユニバーサルデザインは今や、幼児、学生、働く世代、子育て世代、高齢の方、障がい者にとって当たり前の事。まちづくりが全ての人を対象に優しい物であって欲しい。
- ・ 市役所の北側の雑木林を芝生にし、市民が集える場に。
- ・ 大和駅から、建設中の建物に続く、プロムナードを、もっと活気のある場所にした方が良く思う。

- ・ コミセンや生涯学習センターなどにあるピアノを個人利用で貸して欲しい。
- ・ すでにある物を活用するアイデアが多いということは、宝の持ち腐れになっている現状を表していると思う。効率的、有効的なリソース活用を検討してはどうか。
- ・ コミュニティセンターを有効活用する。

Q.今回が4回目となるやまと市民討議会でしたが、このような取り組みへのご意見や、より参加しやすくなるための工夫・アイデアなどお気づきの点がございましたらお書きください。(抜粋)

○**討議会は大切だと感じ、これからも様々な人に関わって欲しい**

- ・ このような場をつくる事はとても大切な事だと実感した。たくさんの人に関わって欲しい。
- ・ 学校でもこのような場を設けても良いと思う。

○**討議会で提案されたアイデアの採用や今後の活かし方についての報告が欲しい**

- ・ 討議会の結果のフィードバックが欲しい。広報でなくて良いので、参加者に提案内容などの結果を郵送して欲しい。
- ・ 今回の結果から、何をどのように進めていくのかを、参加者全員に連絡して欲しい。
- ・ この会が元で、改善された点を、市民に伝える様な工夫が必要。参加する事により、住みやすい場所になるというイメージを持ってもらおうと良いと思う。

○**討議会での意見を市政に反映して欲しい**

- ・ 形式はこのままで良いので、収集された、意見やアイデアを市政に活かして欲しい。
- ・ このような機会に参加出来て、みんなの意見を市政や行政に役立てる仕組みを構築して欲しい。

○**もっと多くの人に参加して欲しい**

- ・ もっと若い層の方々が市民討議会に参加し、これからの大和市のあり方、住みやすいまちづくりのアイデアを提案して欲しい。これが大和市の活性化と人口増につながるのではないかな。若い人達との討議を通じて、大変刺激を受けた。
- ・ 今回20代から40代の方が少ない様に見受けられ、子育て中の主婦が少ないと感じた。
- ・ 大変良い取り組みだと思う。自治体ごとで、市民の意見が伝わるようなBBSなどを作るのはどうか。

○**もっと多くのテーマを討議できるようにして欲しい**

- ・ 一人ひとりの意見が反映されていて非常に良かった。もう少しデジタル化すると良いのではないかな。
- ・ 今回、市役所から案内をいただき市民討議会を知ったが、なるべく多くのテーマを討議できる様、ITを利用したらどうか。
- ・ 思ったより、時間があっという間に過ぎた。配分を考えてほしい。

○その他

- ・ 無作為だということだったが、皆が積極的に発言できていて、このシステムは正解だと思う。
- ・ 大和市を住みやすくする色々な施策、ハード面での対応があると思うが、一番大切な事は大和市を良くしようとする市民の一人ひとりの意識。大きな意味でまちを良くする事と同時に、今出来る取り組み（ゴミを散らかさない、高齢の方、障がい者に優しく接する等々）を広げる活動も期待したい。
- ・ 討議会が硬い雰囲気とならないよう、会場の設定を明るく、また、文字ばかりでなく、画像なども用いて、話が出やすい環境をつくると良いのでは。
- ・ 以前に参加した方の意見などを載せたらどうか。
- ・ 事前に資料も送付されたので、友人の意見も集めて来られた。
- ・ 作業台が大きくなっており、やりやすかった。普段言えないことも、伝えることができて良かった。
- ・ 発表の時は後ろまで聞こえるようにマイク音量を適宜変えられるようにして欲しかった。
- ・ 飲み物がお茶しかなく、トイレが近くなってしまったので、他の飲み物も欲しかった。
- ・ 色々な案が出たが、すでに市で行っていることもある。市民への周知がもっと必要なのでは。

(アンケート調査票)

やまと市民討議会

平成27年11月14日(土)

参加者アンケート

●本日の市民討議会はいかがでしたか？あてはまるもの1つに○をつけてください。

満足 ほぼ満足 普通 やや不満 不満

○その理由をお書きください。

--

●市民討議会での他のグループの発表をふまえ、追加したいアイデアや話し足りないことがございましたらお書きください。

「観光」に関すること	
「子育て・教育」に関すること	
「仕事」に関すること	
「高齢・福祉」に関すること	
その他	

●今回が4回目となるやまと市民討議会でしたが、このような取り組みへのご意見や、より参加しやすくなるための工夫・アイデアなどお気づきの点がございましたらお書きください。

--

ご協力ありがとうございました！

4. 市民討議会の写真





5. 大和市の人口を取り巻く環境

市民討議会の参加者の方には、市の人口を取り巻く環境や取り組みについて情報を事前資料として提供したうえで、討議会にご参加いただきました。

1. 人口の推移と推計

④ 大和市における人口推移と今後の推計

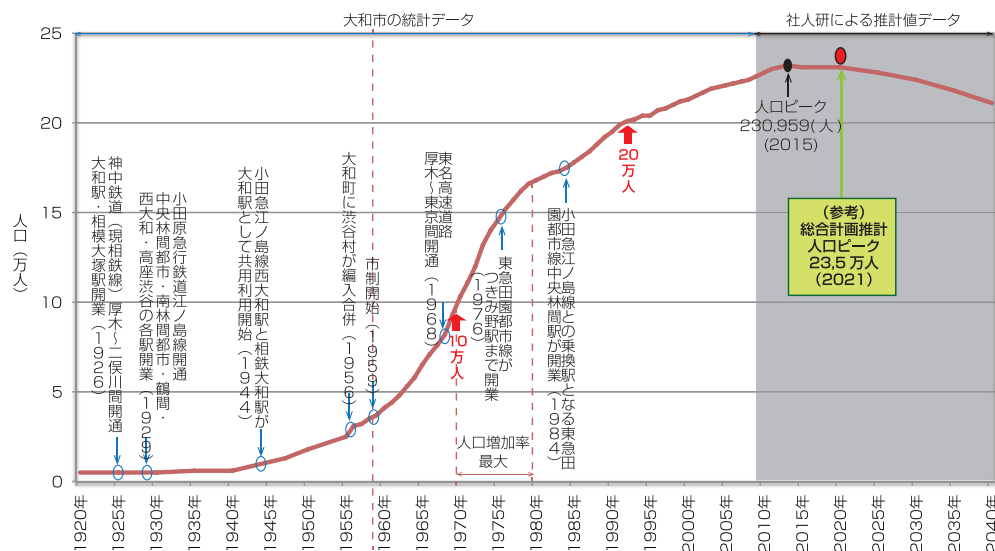
[図表 1]は、1920年から2010年までの大和市の人口推移と、2013年に国立社会保障・人口問題研究所（以降、社人研という）が発表した2010年以降の推計です。

本市の人口は、市制開始前から増加を続けており、市制開始の1959年には人口約3万6千人でした。その後、1970年には10万人を、1992年には20万人を超え、2015年9月現在、約23万3千人となっています。

社人研の推計では、大和市の人口は2015年が最大となり、その後は、緩やかに減少が続いていくものとされています。*

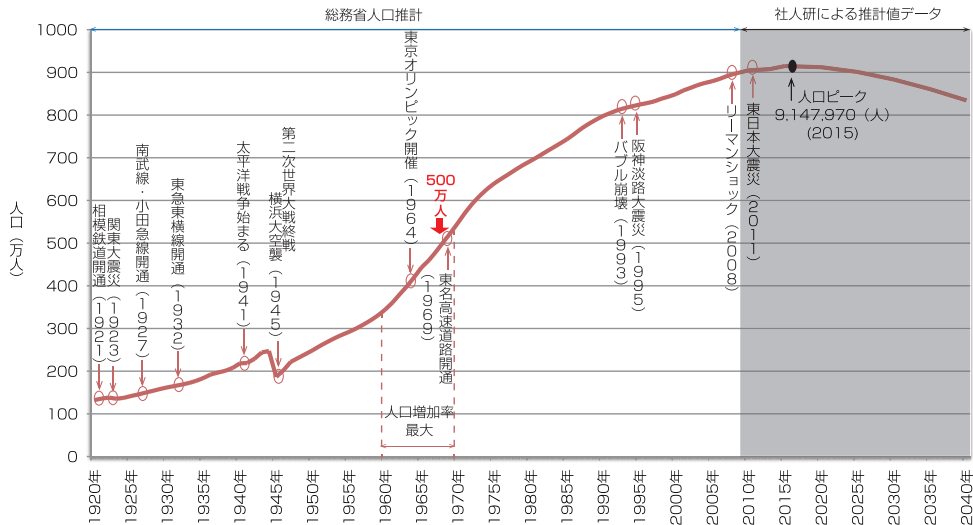
※なお、2014年に市が策定した第8次大和市総合計画後期基本計画の推計では、本市の人口は2021年まで増加が続くものと見込んでいます。

[図表 1] 本市における人口推移及び今後の推計



(出典:大和市統計概要、社人研「日本の地域別将来推計人口」のデータをもとに作成)

〔図表2〕 神奈川県人口推移及び今後の推計（参考）



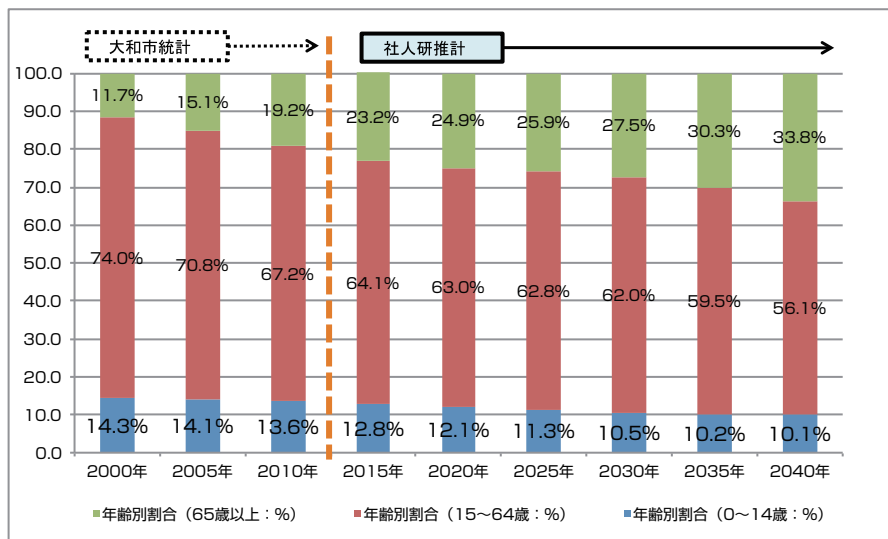
（出典：総務省人口推計、社人研「日本の地域別将来推計人口」のデータをもとに作成）

大和市における年齢3区分別人口割合の推移と今後の推計

「年齢3区分別人口割合」とは、大和市の人口を、年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分に分け、その比率を出したものです。

大和市の年齢3区分別の人口割合をみると、2005年以降に老年人口の割合が年少人口の割合を上回るようになり、今後もその傾向が続くものと推計されています。

〔図表3〕 年齢3区分別人口割合の推移と推計



（出典：大和市統計概要、社人研「日本の地域別将来推計人口」のデータをもとに作成）

2. 人口増減の構造

人口増減をみていく時には、「自然増減」と「社会増減」の2つの視点があります。

● 自然増減

自然増減とは、出生数と死亡数の差のことです。出生数が死亡数を上回って
いけば、自然増、逆に、出生数が死亡数を下回っていけば、自然減となります。

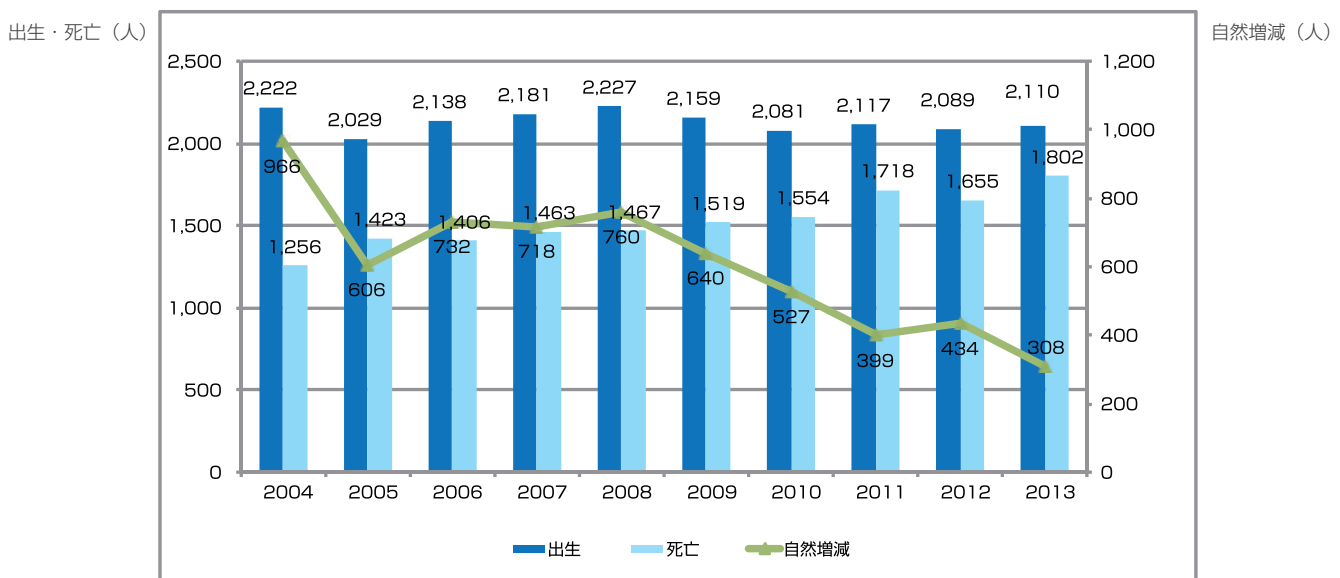
自然増	=	出生数	>	死亡数
自然減	=	出生数	<	死亡数

[図表4]は、大和市における自然増減の推移を示しています。2008年以降、
出生数がほぼ横ばいで推移している一方、死亡数が徐々に増えています。

2013年の時点でも、自然増を維持していますが、このままのペースで推移
すると、近い将来、自然減に転じるものと推測されます。

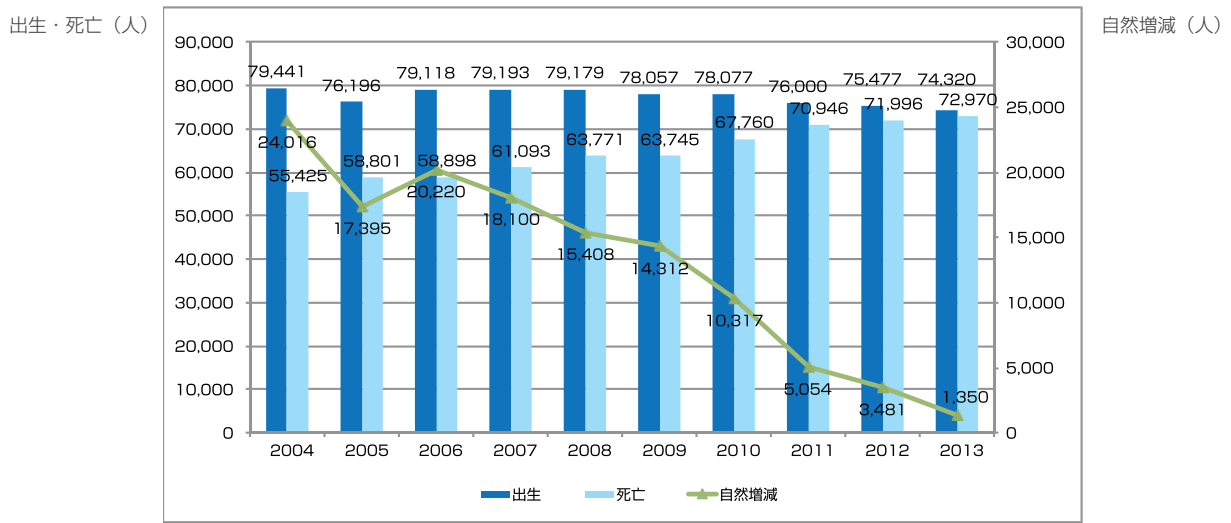
また、この傾向は神奈川県においても同様です [図表5]。

[図表4] 大和市の自然増減の推移



(出典：神奈川県衛生統計年報のデータをもとに作成)

[図表5] 神奈川県自然増減の推移



(出典：神奈川県衛生統計年報のデータをもとに作成)

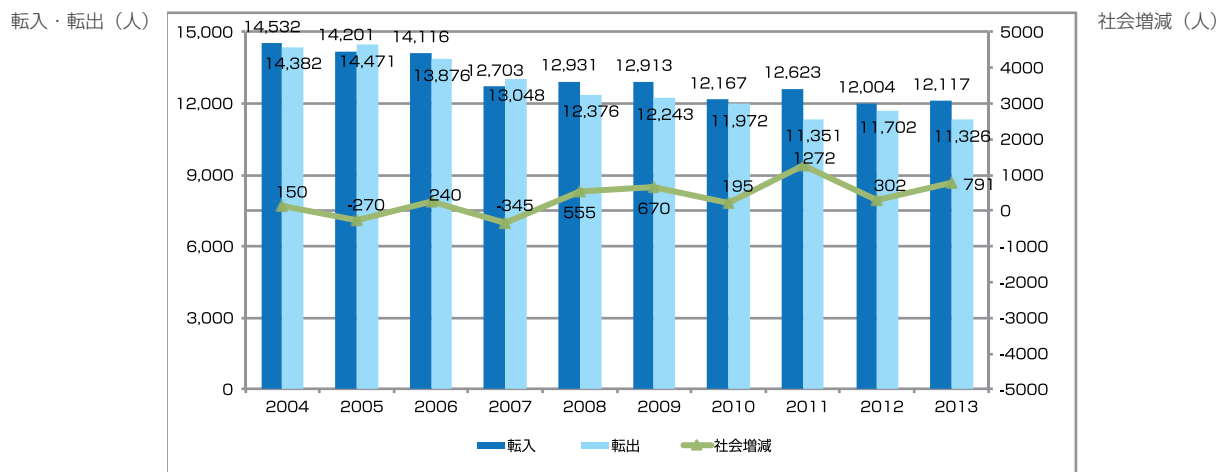
社会増減

社会増減とは、市内への転入数と市外への転出数の差のことです。転入数が転出数を上回っていれば社会増、逆に、転入数が転出数を下回っていれば社会減になります。

社会増	=	転入数	>	転出数
社会減	=	転入数	<	転出数

[図表6]は、大和市における社会増減の推移を示しています。年度毎に増減の幅が異なるものの、ここ数年は、社会増が続いています。

[図表6] 本市の社会増減の推移



(出典：大和市統計概要のデータをもとに作成)

3. 定住の必要性と関連するデータ

P.4の[図表4]のとおり、大和市の自然増減は、今後自然減に転じ、人口減少につながっていくものと推測されます。

このため、自然増を増やすための支援が必要ですが、一方で、大和市で出生数が増えても、生まれたあとに市外へ転出してしまうと、市としては人口減少につながります。

こうしたことから、大和市に住みたいと思う市民を増やすとともに、定住を促進することも、人口減少に歯止めをかけるための重要な取り組みとなります。

そこでここからは、大和市の社会増減にスポットを当て、いくつかのデータを紹介していきます。

④ 大和市における転入・転出の状況

[図表7]は、2005年から2010年の5年間における転入・転出の状況を表したグラフです。

このグラフは、例えば、2005年に25～29歳だった年齢層について、5年後の2010年までの転入数・転出数の差を示したもので、プラスであれば転入が多く（転入超過）、マイナスであれば転出が多い（転出超過）ことを示しています。

2005年から2010年の間で、転出超過が目立つ年齢層は、2005年に「0～4歳」「30～34歳」「35～39歳」となっています。

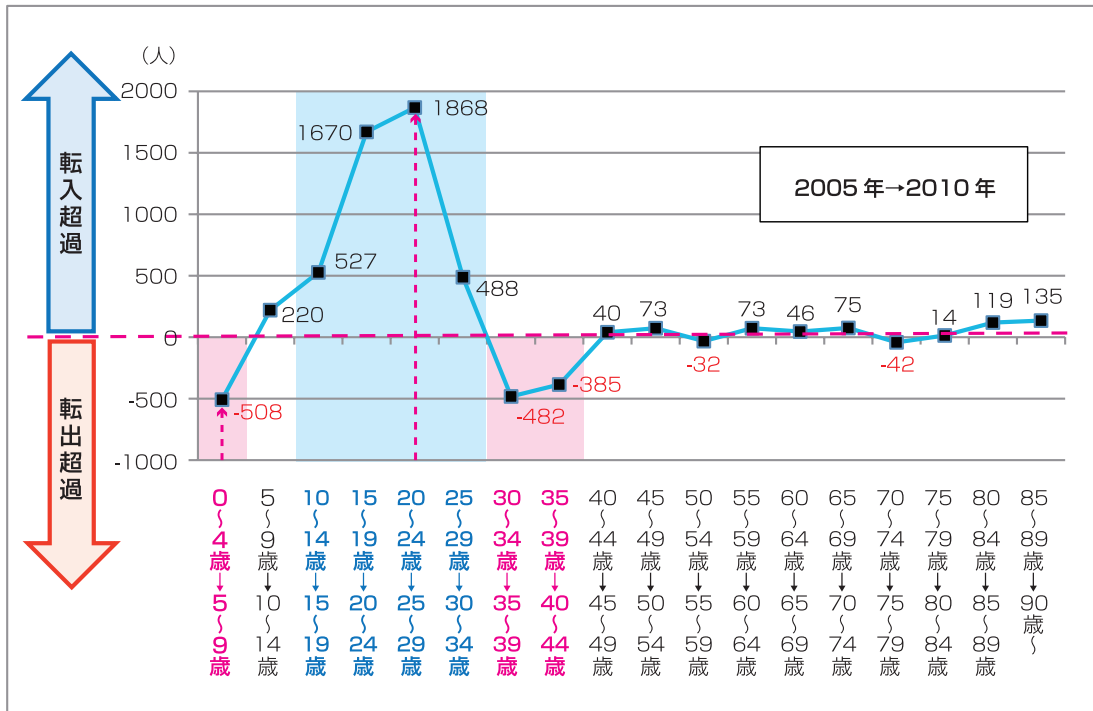
逆に、転入超過が目立つ年齢層は、「10～14歳」「15～19歳」「20～24歳」「25～29歳」となっています。

[図表8]は、1985年以降の3つの年代別で転入・転出状況のグラフを比較したものです。

大和市では、従来から転入・転出の傾向が類似していること、社会増減の動きは0歳から44歳の年齢層で活発になっていることなどが見てとれます。

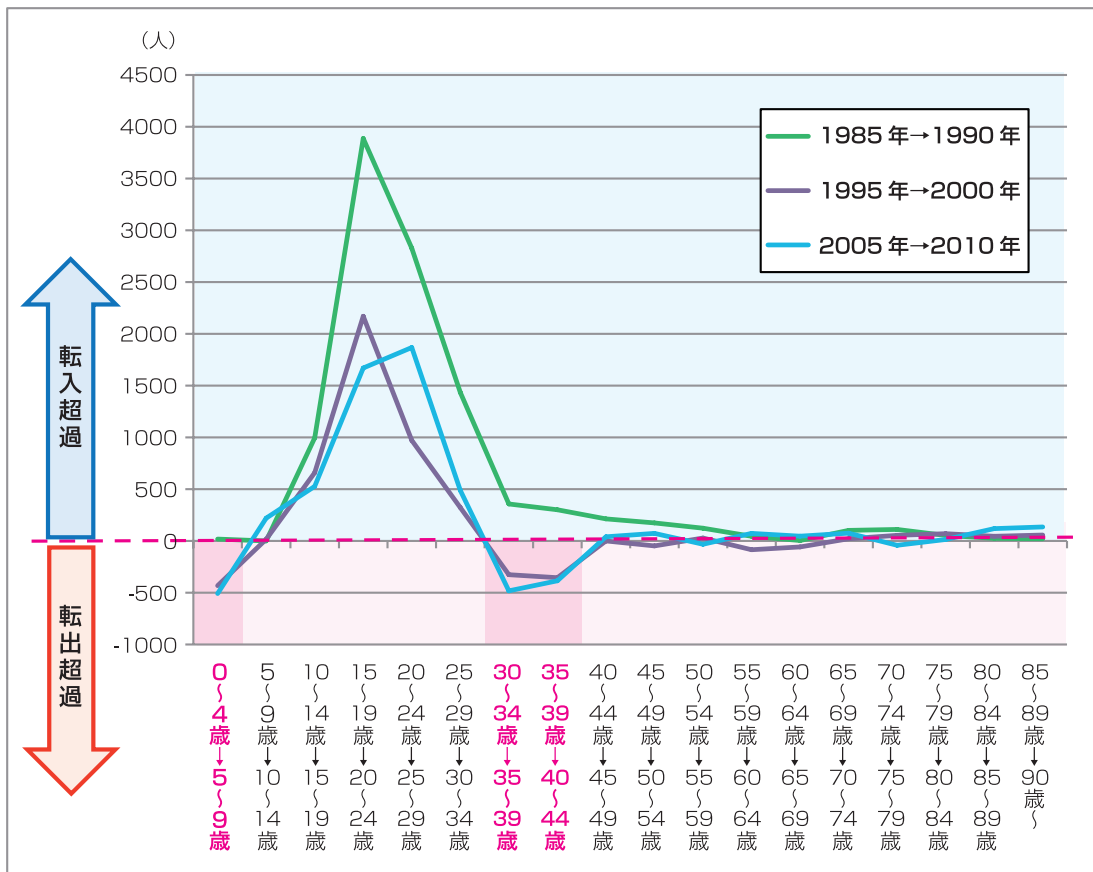
また、社会増減の幅は小さくなっており、転入・転出自体が減少しつつあることが分かります。

[図表7] 大和市の転入・転出の状況 (2005年→2010年)



(出典：地域経済分析システムのデータをもとに作成)

[図表8] 大和市の年代別転入・転出状況



(出典：地域経済分析システムのデータをもとに作成)

④ 転入前の居住地と転出後の居住地

[図表9]は、2014年における大和市への転入前の住居地と転出後の住居地のデータです。大和市への転入は、横浜市からが最も多く、続いて、県内の近隣市となっており、全体の半数以上が県内近隣市からの転入となっています。

市外への転出についても同様に、県内近隣市が半数以上を占めています。

[図表9] 大和市における転入元・転出先の状況

市町村別（東京23区含む）転入・転出状況					
転入			転出		
1	横浜市	2,084	1	横浜市	1,778
2	相模原市	688	2	相模原市	778
3	藤沢市	587	3	座間市	481
4	川崎市	522	4	藤沢市	470
5	座間市	493	5	川崎市	441
6	町田市	341	6	綾瀬市	347
7	綾瀬市	287	7	町田市	319
8	海老名市	211	8	海老名市	235
9	世田谷区	178	9	世田谷区	178
9	厚木市	178	10	厚木市	137
	：			：	
	合計	9,887		合計	9,674

都道府県別転入・転出状況					
転入			転出		
1	神奈川県	5,713	1	神奈川県	5,306
2	東京都	1,478	2	東京都	1,632
3	千葉県	391	3	千葉県	410
4	埼玉県	283	4	埼玉県	336
5	静岡県	201	5	静岡県	184
	：			：	
	合計	9,887		合計	9,674

(出典：総務省住民基本代表人口移動報告のデータをもとに作成)

また、P.7の[図表7]で転出が多いとみられた30歳代に着目して、転入・転出の状況をまとめたものが[図表10]となっています。30歳代においても、転入・転出の状況は、市全体の傾向([図表9])と同様になっています。

[図表10] 30歳代に着目した転入元・転出先の状況

30歳代に着目した市町村別（東京23区含む）転入・転出状況					
転入			転出		
1	横浜市	566	1	横浜市	492
2	相模原市	205	2	相模原市	234
3	川崎市	155	3	藤沢市	152
4	藤沢市	139	4	川崎市	140
5	座間市	127	5	座間市	131
6	町田市	92	6	綾瀬市	96
7	綾瀬市	72	7	町田市	94
8	世田谷区	59	8	海老名市	67
9	海老名市	54	9	世田谷区	47
10	厚木市	41	10	厚木市	40
	：			：	
	合計	2,527		合計	2,688

30歳代に着目した都道府県別転入・転出状況					
転入			転出		
1	神奈川県	1,538	1	神奈川県	1,529
2	東京都	411	2	東京都	471
3	千葉県	102	3	千葉県	131
4	埼玉県	74	4	埼玉県	87
5	静岡県	42	5	愛知県	46
	：			：	
	合計	2,527		合計	2,688

(出典：総務省住民基本代表人口移動報告のデータをもとに作成)

4. 人口減少等による影響は

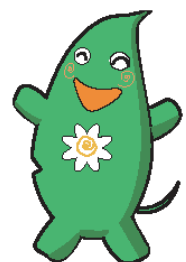
人口減少により、大和市にとって、具体的にどのような影響が出るのか、数値などで示すことは困難です。

国の経済財政諮問会議の下に設置された「選択する未来」委員会では、『現状が続けば、人口減少と高齢化が進み、日本経済は縮小し、国力も低下していく可能性が高い』としており、具体的には、労働人口の減少による経済規模の縮小や、社会保障給付費の増加傾向による財政破綻などをあげていることから、日常生活への影響は、少なからず出てくるものと考えられます。

<参考>

平成26年度に開催した「やまと市民討議会」では、「大和市がもっと子育てしやすくなるためには」というテーマで討論を行いました。子育て環境の充実は、大和市に住み続ける人の増加にも繋がることが考えられます。

参考として、大和市の子育て施策について、P.10～13で紹介します。



大和市イベントキャラクター
ヤマトン

大和市 年齢ステージ別子育て

＜本市が行っている子育て支援事業を年齢・分野別にまとめました＞



	妊娠・出産期	乳児期 (0～1歳)	保育園・幼稚園期 (2～5歳)
健診・教室等	<p>市 妊婦健診 妊婦中の健康管理を促すための健診を無料で受診できます</p> <p>市 プレママ・パパ教室 第1子目のママ・パパを対象とした、妊娠・出産・育児に関する基本講座</p>	<p>補 乳児家庭全戸訪問 育児の支援や情報提供のために家庭を訪問します</p> <p>市 乳幼児健診 月齢に応じた発育を確認します (4か月・8か月・1歳6か月・3歳6か月)</p> <p>市 離乳食教室 ・幼児食教室 ・おべんとう教室 月齢に応じた食事等に関する講座</p>	<p>市 2歳児歯科相談 歯科健診や歯磨き指導等</p>
子育て支援・発達支援・相談支援等	<p>他市と比較し、手厚い支援体制となっています。</p>	<p>補 ファミリーサポートセンター 地域における会員相互の子育て</p> <p>市 保育コンシェルジュ 家庭のニーズにあった保育サービスの情報提供を行う相談員</p> <p>市 地域育児センター事業 保育所 17 園による地域における子育て支援プログラム ・育児相談事業 ・地域育児講座 ・開放保育あそぼう会等</p> <p>市 低体重児育児支援 低体重児育児支援と保護者を対象とした健康管理・育児支援</p> <p>市 おやこ教室 心理発達面に不安のある子の発達を促す支援</p> <p>市 児童発達支援 発達に不安のある子を対象とした、日常生活動作指導や集団生活への適応訓練の福祉サービス</p> <p>市 育児相談 乳幼児の健康相談</p> <p>市 子どもの発達相談 専門職員による発達に関する悩み相談</p> <p>市 家庭児童相談 家庭相談員による子育てに関する悩み相談</p>	

市…大和市の自由に使える財源だけで行う事業

補…事業を推進するために、国や県の財源と一緒にを行う事業

サービス情報

小学生期 (6 ~ 12 歳)	中学生期 (13 ~ 15 歳)
<div data-bbox="98 833 344 873" data-label="Section-Header"> <p>市 自閉症療育講座</p> </div> <div data-bbox="98 873 775 911" data-label="Text"> <p>自閉症など発達障がいのある子への対応などを学ぶ講座</p> </div>	
<div data-bbox="98 992 347 1030" data-label="Text"> <p>支援活動をサポート</p> </div>	
<div data-bbox="338 1111 730 1404" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="335 1413 584 1449" data-label="Caption"> <p>ファミリーサポート</p> </div>	
<div data-bbox="181 1514 513 1552" data-label="Section-Header"> <p>■ 放課後等デイサービス</p> </div> <div data-bbox="202 1552 1259 1592" data-label="Text"> <p>発達に不安のある子を対象とした、生活能力向上のための必要な訓練等の福祉サービス</p> </div>	
<div data-bbox="181 1796 373 1834" data-label="Section-Header"> <p>市 青少年相談</p> </div> <div data-bbox="205 1834 726 1874" data-label="Text"> <p>主に学齢時期の子育て青少年に関する相談</p> </div>	
<div data-bbox="110 2101 560 2141" data-label="Text"> <p>■ …実施が義務付けられている事業</p> </div>	

	妊娠・出産期	乳児期 (0～1歳)	保育園・幼稚園期 (2～5歳)
子育て関連施設	<p>県内 33 市町村の助成状況 不育症：12 市町村 (26 年度) 一般不妊：2 市 (26 年度) 特定不妊：14 市町村 (26 年度) 出産費：大和市のみ (26 年 10 月～)</p>	<p>補 子育て支援センター 保護者の育児不安を解消するため、育児相談、子育てサロンの開催をしています</p> <p>補 つどいの広場「こどもーる」 子育て親子が気軽に集え、相談ができ、子育て情報がある集いの広場</p>  <p>子育て支援センター</p>  <p>こどもーる鶴間</p>	
通園通学施設	<p>※不育症、一般不妊、出産費の助成は、大和市が県内で初めて導入！ ※助成を行っている市町村は増えているが、不育症・一般不妊・特定不妊の3点とも助成をしているのは大和市のみ！</p>	<p>■ 認可保育所・認定こども園 公立 4 園・民間 29 園、入所定員計 2,695 人</p> <p>・私設保育施設 民間 18 園</p>	<p>・幼稚園 民間 18 園</p>
手当助成	<p>市 不育症治療費の一部助成 (上限 30 万円) 市 タイミング法・人口授精などの一般不妊治療費の一部助成 (上限 5 万円) 市 体外受精・顕微授精等の特定不妊治療費の一部助成 (上限 5 万円) 市 第 3 子以降の出産費の助成 (上限 5 万円)</p>	<p>■ 児童手当 児童の健やかな成長に資するための手当支給。月額 5～15 千円/月</p> <p>■ 児童扶養手当 ■ ひとり親家庭等医療費助成 父母の離別によるひとり親家庭等について、手当の支給、医療費の</p> <p>補・市 小児医療費の助成 中学校卒業までの児童にかかる保険診療の自己負担分を助成</p>	<p>★ 中学校卒業までを対象としているのは、神奈川県下の市としては、厚木市、海老名市と大和市！ (他市は小学校 1～6 年生までが多い)</p>

市…大和市の自由に使える財源だけで行う事業

補…事業を推進するために、国や県の財源と一緒にを行う事業

小学生期 (6 ~ 12 歳)	中学生期 (13 ~ 15 歳)
<p>補 児童館 児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにするため、市内 22 か所に設置しており、指導員のもとに様々な活動が行われています</p>	
<p>補 放課後子ども教室 公立小学校全 19 校において放課後の児童の安全・安心な居場所を設け、地域社会の中で児童の健全育成を図ります</p>	
<p>市 青少年センター 青少年の健全な育成を図るため、青少年に交流と活動の場を提供します</p>	
<p>市 放課後寺子屋やまと 公立小学校全 19 校において実施 放課後に児童の学習支援を行い、学力の向上を図ります</p>	
<p>■ 小学校 公立 19 校、私立 1 校</p> <p>補 放課後児童クラブ 公設 17 か所、民営委託 2 か所、民間補助 5 か所 保護者が就労等で昼間不在になる児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供します</p>	<p>■ 中学校 公立 9 校、私立 1 校</p> <div data-bbox="1145 1211 1406 1406" data-label="Image"> </div> <p>大和中学校</p>
<p>助成</p>	
<p>※対象年齢は自治体によって異なります。</p>	

やまと市民討議会
- 大和市に住みたいと思う人を増やすアイデア編 -

報告書

(平成27年度 第2回)

平成28年1月

発行 大和市 政策部 総合政策課
〒242-8601 神奈川県大和市下鶴間 1-1-1
電話 046-260-5304

